

埼玉アートシアター通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS



(財)埼玉県芸術文化振興財団

2006.9-10

5

蜷川幸雄公開対談

NINAGAWA

千の目

映画監督

作曲家

(財)埼玉県芸術文化振興財団
芸術監督・演出家

是枝裕和

×

笠松泰洋

×

蜷川幸雄

02 NINAGAWA 千の目
是枝裕和×笠松泰洋×蜷川幸雄

06 PICK UP 彩の国シェイクスピア・シリーズ
『コリオレイナス』『恋の骨折り損』

10 PICK UP アクラム・カーン／シディ・ラルビ・シェルカウイ
『ゼロ度 zero degrees』

12 PICK UP 「源氏語り54帖」
「彩の国さいたま寄席 四季彩亭」

14 PICK UP 小山実稚恵 ピアノ・トリオ 夢の響演

15 PICK UP バッハ・コレギウム・ジャパン
モーツァルト《レクイエム》

16 PICK UP ピアニスト100

17 EVENT INFORMATION

18 EVENT CALENDAR

20 PICK UP さいたまゴールド・シアター中間発表会



映画監督

是枝裕和 ×

Yukio Ninagawa

作曲家

笠松泰洋 ×

Hirokazu Koreeda

● 公開対談シリーズ 第4回 ●

NINAGAWA 千の目

まなざし

二十数年前の意外な出会いが結びつけた、3人のクリエイター。
それぞれの分野で第一線で活躍する3人には、共通点もあり相違点もあり。
三者三様のものづくりの仕方は刺激的で興味の尽きない話となった。

(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督・演出家

蜷川幸雄

● PROFILE

蜷川幸雄 (にながわゆきお)

埼玉県川口市出身。シェイクスピアはもとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年も『近代能楽集』ニューヨーク公演、歌舞伎『NINAGAWA十二夜』、『女王メディア』、『天保十二年のシェイクスピア』など多数の演出を手がける。まさに世界を舞台に疾走し続ける演出家。2006年、第5回朝日舞台芸術賞特別大賞、第13回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞受賞。(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督。

是枝裕和 (これえだひろかず)

1962年東京生まれ。早稲田大学卒業後、テレビマンユニオンに参加。主にドキュメンタリー番組を演出。95年、初の映画作品『幻の光』がヴェネツィア国際映画祭金賞受賞。04年には『誰も知らない』がカンヌ国際映画祭にて最優秀男優賞を受賞。ほかの作品に『ワンダフルライフ』『ディスタンス』『花よりもなほ』がある。

笠松泰洋 (かさまつやすひろ)

1960年福井県生まれ。東京大学卒業後、作曲を三善晃、ピアノを山根美代子に師事。クラシックの作品を発表する一方、『グリークス』『タイタス・アンドロニカス』などの蜷川幸雄演出作品を始めとする演劇作品や映画『ワンダフルライフ』(是枝裕和監督)、H・アール・カオス等ダンス作品に音楽を提供。03～05年、王子ホールの特約により、室内オペラ『エレクトラ三部作』を手掛ける。05年、歌舞伎座『NINAGAWA十二夜』ではチェンバロを演奏。

二十数年も前、
若き日の笠松さんが僕を勇気づけた

蜷川 (以下N) 『NINAGAWA千の目(まなざし)』シリーズ、第4回のゲストは是枝裕和さんと笠松泰洋さんです。

笠松さんと僕、そして是枝さんとの関係という、まず、1980年に『NINAGAWAマクベス』を演出した時のことです。それは舞台一面が仏壇になっていて、その中で『マクベス』が展開されていくという、それまでのシェイクスピアと変わった、少しユニークな芝居で、私としてはとても良い作品が出来上がったと思っていますが、まったく評判になりませんでした。「こんないい作品を誰もわからないのだ」と思って、ほとんど絶望的な気分でした。そんなある日、池袋の歩道を歩いていたら、若い二人の学生が側にきて、「蜷川さんですね。あなたの『マクベス』を観ましたが、すごく良かったです」といってくれました。僕はそれに勇気づけられて、「よかった。あの作品をわかってくれる人がいたのだ」と思ったら、それが若い日の笠松さんでした。

『NINAGAWAマクベス』はスコットランドのフェスティバルで評判になり、ロンドンでも上演出来ようになったのですが、東大生であった笠松さんにその時に褒められなかったら僕のあの路線は消えてしまったかもしれない。そしてロンドンに行かなかったかもしれない。

その後、ある日駅でその時の学生笠松さんにバッタリ会い、今は作曲をしていると聞いたので、「では一緒に芝居をやろうか」という事で、芝居の音楽を作って頂きました。

その笠松さんが「稽古場を覗いていいですか」と連れていらっしゃったのが是枝さんです。まだ若くて初々しい時代で、そういう関係で是枝さんは2度ほど稽古場を覗いていたと思います。

笠松さん、是枝さんどうぞ。(拍手に迎えられ、お2人登場)

二人は真逆。
蜷川さんは北風で、是枝さんは太陽

N 是枝さんの最新作の『花よりもなほ』は初めての時代劇ですが、なぜ時代劇を撮ろうと思ったのですか。

是枝 (以下HK) まだ映画をやって10年ですが、僕はドキュメンタリーのTV番組からスタートしたので、その映画の中のリアリティの根っこに何かナチュラルなものとか、実際に生きている人、役を演じる人たちの生活の中に持っているリアリティみたいなものをもらってきて映画を作るということを結構やってきたのです。が、そういう作品が続いた時に、ナチュラルだけがリアリティではないだろうという気持が自分の中にあったので、ドキュメンタリーの根っこと違うところで一本きちっとフィクションをやってみたいと思い始めたのが4、5年前で、それがようやく一本できたという感じです。

N 大変でしたか。

HK ゼロから作っていくという作業だったので自分ではすごく新鮮だったし、撮影所の中で撮影するのも初めてだった。一番今までと違ったのは照明で、照明を待つという時間をどう使うかというのが自分では今回はチャレンジでした。今までだと、芝居をやってみて「では撮ろうか」というとすぐにカメラを回すという状況で映画を作ってきましたが、今回は「これで行きましょう」と言ってから、「では照明を直します」と言われ1時間くらい時間がかかるので、その間に自分が「これ

で行こう」といった芝居が残らなくなってしまうのです。その時間を無駄にせずに芝居を残しつつ、どう撮影に臨むかというのが最初は戸惑いました。

N スタッフには「もっと早くならないの」とかは言わないのですか。

HK 僕は言いません。

N 僕は態度で、(手で小刻みにリズムをとる仕草で)手はこうなってしまう、「まだ?」とか、そのうちにだんだん「すぐ撮れるようになんとか出来ないの!」と声が荒立ちますが、是枝さんはそんなことが穏やかに出来るんですね。

HK 内心は本当に心の中でどなっています。やはりいままで一般の方とか子供を撮るということが続けてきたので、その辺りの忍耐力はちょっとあります。

笠松 (以後YK) お二方は真逆ですね。両方とお付き合いしていると、演出家の役割とか、スタッフと俳優に求めるものが蜷川さんは、極限状況に立たせてその先に何が出てくるかを見せろというタイプで、最初にぱっと追い込むので、稽古初日はだいたいバーンといきます。蜷川さんの言葉はここでは言えないような言葉がたくさん並ぶのです



が、初めての俳優さんは「これはすごい所にきちゃった」とすごく緊張しますが、追い込まれると自分の内面が出るということもあると思います。

そして是枝さんはいかに自然にリラックスしてられるかという感じで、出演者の普段は出せないような内面を是枝さんが引き出してくれるという感じでやっていると思います。“北風と太陽”という感じです。

N 俺は北風?

YK 北風はすごく強いので、マフラーもコートも飛んでいってしまうという感じで、結局裸になってしまいます。

N それはすごくわかる。

『花よりもなほ』では長屋が主な舞台ですが、長屋ってすごく撮りにくいですね。狭いし、ある条件の中で長屋は色々な方が撮っているから、新しいカットを撮るにはどこへカメラが行ったらいいかとか、どうやったら新しい長屋が作れるかについては、僕が撮った映画『囃う伊右衛門』の長屋も結構苦労しましたが、そういうことはなかったですか。

HK それは最初に思いました。長屋をどう撮るかが一番のテーマになる映画だと思ったので、傾斜に長屋を作りたいと美術の方に最初をお願いして、坂道の途中で点々と長屋があって、下りてくると井戸があるという、下りながら曲がっている所に長屋らしきものを作りました。平面になってしまうどうしても画面の奥行きが出しにくいと思っ



蜷川さんから得たことを 音楽側に取り込んでいきたい。

たので、そこはこだわりました。

N それは新しいですね。僕は『啜う伊右衛門』の京極夏彦さんの原作に水際の何とかが一行くらい書いてあり、それで原作に一行あるから、水際でびしゃびしゃになっている長屋にしましたが、是枝さんは、長屋の坂道を発見して、やったーと思っているのでしょう。

HK はい。(笑い)

N これは俺にしかないと思えることは割りと大事なところですよ。

HK 最初のこだわりをどのくらい通せるかというのが結構大事です。色々な制約が出てきてお金がかかります。全部は押し通せないのどどちらかを譲って何かを取らないといけないという選択があり、そこを誤るとたぶん観ている方達が豊かなものを観た気になれないので、そこが難しいです。

YK 蜷川さんと是枝さんはすごい共通点があるなと思います。蜷川さんはその場での即決が早いのだと思います。その中でバランスを取っています。これは絶対どこかでやらなければいけないが、今ではないと思うとか、ここだけは譲れないが他は今回の予算だと妥協しなければいけないという社会的なバランスがあることが分かります。

是枝さんは出し方が温厚ですが、譲らないところは絶対に譲らないというところがすごく共通しています。

HK 最初に蜷川さんの稽古場を拝見させて頂いた時は演出に悩んでいた時でした。一本映画を撮って、役者をどうやって動かすのか、役者を演出するというのはどういうことなのだろうとか根本的に悩んだことがあり、それで笠松さんをお願いして蜷川さんの稽古を覗かせて頂きました。噂では“灰皿が飛ぶ”と聞いていましたが、非常に穏やかな稽古風景で、逆に役者に対して非常に柔軟な対応をされていました。

コミットメントとディタッチメント

N 笠松さんとはどういうきっかけで知り合われたのですか？

HK もともと僕が『幻の光』の映画を撮った後に、笠松さんからご連絡を頂き、「映画を観て是枝さんのやろうとしている事がよくわかり

ました。あなたの映画には僕の音楽が必要だ。絶対僕の音楽があったらあなたの映画はもっと良くなると思う」とストレートに言われました。

YK 僕はそれでその映画を観た日に自分が作ったらこうなるというのを作ったのです。それを聞かせたくて、それで一週間後ぐらいに会って聞いてもらいました。

N 是枝さんの画像は少し普通の監督よりカメラは引き気味ですよ。『幻の光』でもそうですが、「誰だ、これは」とわからないところがあったりします。ちょっと引き目だという感じがありますが、冷たいというか、寂しいというかディタッチメントな空気、間に透明な距離感の感じがします。僕はコミットメントばかりです。

笠松さんの音楽も僕から見ると実はそんなにコミットしない。二人は他者に対する距離の取り方が共通しているところがあるかもしれません。

HK 音楽に関して言うと、登場人物の情に乗っかっていくよりも場に響かせたいという意識がすごく強くて。その僕の考えと笠松さんの音楽が映像の中で響く音が近いみたいです。

でも、映像ではそういうディタッチメントな感じというのをどこかで乗り越えなければと思う自分の欠点だと自覚をするように最近はなってきた、やはりきちっと顔なら顔を撮ろう、表情を撮ろうと意識が変わってきました。『花よりもなほ』ではかなり寄ったつもりです。

N 寄った気分はどうでした。

HK 自分では成長だと思っています。

N 自分のそれまで生きてきた、他者に対する接近の仕方や接し方を含めてちょっと変革を起こさないと撮れないでしょう。

HK そうですね。そのディタッチメントというのは僕自身が持っていた演出家になる以前の人との関わり方の距離が、たぶん計算で出ているのではなく出ちゃっているのだと思います。ただそれに気づいた時は結構ショックでした。生身の人に対してどうカメラを向けていくのかというのが、今、自分の中で10年かけて少しずつ自分を変えていっているところだと思います。

N 笠松さんにはそういう意味では、作曲家として聞くべきか、それと

次回作はちゃんと 肉体を撮ろうと思っています。



も作品としての自分のやりたい方向を聞くべきか、どっちがいいのかな。

YK どちらも一緒だと思います。音楽は色々な媒体と一緒に出来ますが、もう一つ、クラシックの作曲家として音楽だけで全てを表現するという事が自分の中心に一番強くあります。

どの分野も自分の道を進むという点では困難があると思います。それはきっと蜷川さんも是枝さんも同じで、それと闘って自分の作りたいものを作るという環境を自分で手に入れなくてはと思っています。

N 僕らの時代はシェイクスピアをやると、目にブルーのシャドーを塗ったりしました。極端に言えば外人に似せるために鼻を付けるとかしたが、そんなことをやっていたって気持ち悪いだけだと思っていました。それからどう脱却していったらいいのかを考えたのです。

YK それは本当に大問題です。西洋音楽は技術的には非常に高いものがあり、それは何かという教育システムが完璧に出来ているということです。その遺産がすごく大きくて、それは利用したいが、しかしそこで全てが表現出来るかというそれは決してないし、僕は仕事柄外国の人に演奏してもらうこともあります。僕が作ったものは圧倒的に日本的だといわれます。また楽器の起源をよく調べると、ほとんどの西洋の楽器のルーツは西洋ではないのです。それを考えると日本人だから日本の楽器で、と考える必要はないと思いますが、自分はアジア人で、こういうところで生きているということと、作り出す作品とのすり合わせをどうしたらよいか常に考えます。

N 是枝さんは次の作品はどちらの方向にいくのですか。

HK 今、自分の中ではいくつか構想はありますが……。

N 例えば顔を撮るのか、引き下がって戻るのか。

HK 今度はちゃんと肉体を撮ろうと思っています。身体を撮りたいと思っています。少し上半身から下半身に向かおうと思っています。作品としてはもう少しフィクションというものをやってみたいと思います。

N まったく違う是枝さんに我々は出会うチャンスがあるかもしれないですね。是枝さんの撮る下半身って何だろう。

HK 今までは人の記憶とかをテーマにしてきたんですが、やはり食べるとか、セックスも含めて、肉体というものを描くということをちょっと避けていたというか、まだそこまで辿り着いていなかったところがあって、少しその部分に向けてきちっとカメラを回そうと思っています。

N 面白そうですね。大変そうですね。いい俳優に恵まれ、いい演じ

だんだん僕の領域を 侵しつつありますね。



手に恵まれなときっと大変ですね。

HK それに耐えてもらえる女優さんをどうやって探すかということからスタートしなければいけないので、ちょっと時間がかかるかもしれません。

N 笠松さん、次は何ですか。

YK 3年連続でオペラをして去年で終わり、それは自分でもすごく集大成的な仕事だったので、次に何をやるかということとはとても難しい時期にいますが、やりたいことはあります。『トロイアの女』をオーケストラと朗読と合唱の作品にしたいと思っています。

N だんだん僕の領域を侵しつつありますね。

YK 演劇で蜷川さんとやらせて頂き、得たことはすごく大きくて、それをより音楽側に取り込んでいきたいと思っています。

N こうやって皆さんに聞いていただくものを作るといってもこんなにも違うということがよくわかると思います。本当に三者三様で、結構面白いなあ僕は思っています。

2006.07.23 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホールにて

● 蜷川幸雄公開対談 ● 「NINAGAWA 千の目」第5回

写真家 蜷川実花 × 演出家 蜷川幸雄

本年2月から、当財団の芸術監督、蜷川幸雄が毎回、多彩なゲストをお招きして、彩の国さいたま芸術劇場で公開対談をしている「NINAGAWA 千の目」も5回目を迎えます。初めての女性ゲストとなるのは、実の娘でもある写真家の蜷川実花さん。初の長編監督映画『さくらん』の公開を来年に控えた実花さんと、映像作家同士として、あるいは親子として、どんなトークが展開されるか、期待の高まる顔合わせです。

【日時】9月22日(金) 開演 19:00 (約1時間)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【定員】346名

進行:佐藤友紀(ライター)

Mika Ninagawa

蜷川実花
1972年東京生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。「第9回写真3.3m展」グランプリ(96年)、「第13回キャノン写真新世界」優秀賞(96年)、「第9回コニカ写真奨励賞」(98年)、「第26回木村伊兵衛写真賞」(01年)、「大原美術館賞」(06年)など数々の賞を受賞。主な写真集に「Acid Bloom」(03年)「Liquid Dreams」(03年)「mika」(04年)「floating yesterday」(05年)など。現在は様々なファッション誌や、CDジャケット、広告を中心に、写真集や展覧会での作品発表で活躍中。

まなざし

第5回

見所いっぱい、 彩の国シェイクスピア・シリーズ

蜷川幸雄が彩の国さいたま芸術劇場の開館以来、取り組んでいる彩の国シェイクスピア・シリーズの第16弾・17弾がいよいよ決定した。ローマ史を題材とした『コリオレイナス』とオールメール・シリーズ第3弾の喜劇『恋の骨折り損』という、今から楽しみな二作。演出の蜷川幸雄に意気込みを聞くと共に、現在、まさにこの二作品の翻訳に取り掛かっている松岡和子さんに、それぞれの作品の魅力について、語っていただいた。



蜷川幸雄 —

さいたまゴールド・シアターの中間発表会（P.20～22参照）が終わったと思ったら、年内には『オレステス』『タンゴ・冬の終わりに』が控え、休むまのない蜷川幸雄だが、来年の彩の国シェイクスピア・シリーズに向け、早くも走り始めているようだ。「今回、この二作品を選んだというのはね、『コリオレイナス』は悲劇で、『恋の骨折り損』は喜劇で、対称的なシェイクスピア作品を楽しんでもらいたいと思って」

この二作品はキャストも対称的だ。『コリオレイナス』は主演の唐沢寿明を始め、白石加代子、勝村政信と「実力を持った中堅の俳優たち」であり、それぞれ過去の蜷川作品でも重要な役どころを演じてきた役者たちで固めている。

一方、『恋の骨折り損』は、北村一輝、姜暢雄、窪塚俊介、中村友也ら蜷川作品初登場の新鋭を始め、「若い俳優で、いい男揃い」。この『恋の骨折り損』は、男性が女役も演じるオールメール・シリーズの3弾目でもあるが、このシリーズ出演をきっかけに大きく飛躍した若手俳優も出てきている。第1弾の『お気に召すまま』では成宮寛貴、第2弾の『間違いの喜劇』では小栗旬をそれぞれ主役に抜擢したが、その後の2人の活躍ぶりは周知のとおり。いつもあっと驚くキャスト選びをする蜷川だが、今回の北村選出について、「テレビでホストを演っているを

Cast

**TOSHIAKI
KARASAWA**



コリオレイナスを演じる唐沢寿明。

「悲劇と喜劇、中堅俳優と若手俳優 対称的な二作品を楽しんでもらいたい」

見てね、その時、思ったんだよ、彼はシェイクスピアをできるかもしれないって」と語っている。舞台経験はあまりない若手俳優たちが、どんな成長を見せてくれるかも、見所のひとつだ。

先に公演のある『コリオレイナス』に関しては、すでに蜷川はかなり具体的な演出イメージを持っているようだ。「『コリオレイナス』はローマものなんだけど、今までも『タイタス・アンドロニカス』などローマものは結構やってきているでしょう。だから、どういうふう違った演出にできるか、難しいところなんです」

『コリオレイナス』は裁判劇に近いところがあり、そのため絵柄が地味になりがちだと

いう。それをどうやって見せていくか、秘策を練っているとのこと。舞台美術などビジュアル面でも毎回、思いも寄らない演出で、見るものに嬉しい驚きを与えてくれる蜷川だが、その期待に今回はどう応えてくれるか。当人にはプレッシャーでもあるが、それだけに燃えている様子。

実はこの作品、ロンドンにあるバービカン劇場での公演が予定されている。そこに蜷川は45名にも及ぶ役者陣を連れ、乗り込む。「俳優としての力もあるし、人間としても魅力のある唐沢と、日本的な独自性を持っている白石を中心に据え、『コリオレイナス』の人間的な面をじっくり描きたい。いい作品を残すのはじじいの遺言だと思ってますから」

**MASANOBU
KATSUMURA**



コリオレイナスの宿敵タラス・オーフィディアス役の勝村政信。

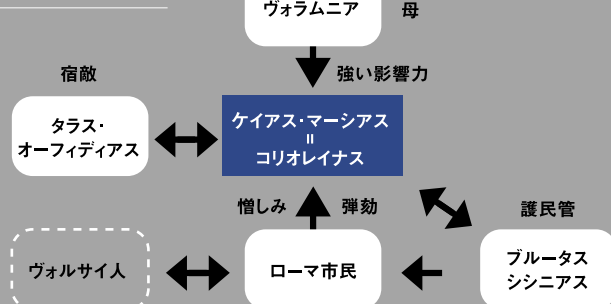
**KAYOKO
SHIRAISHI**

コリオレイナスの母ヴォラムニア役の白石加代子。

Story

貴族であるケイアス・マーシアスは、尊大なためローマ市民たちに敬遠されている。だが、ローマと対決するタラス・オーフィディアス率いるヴォルサイ人に勝利し、その首都コリオライを陥落させた功績により、コリオレイナスという名が与えられ、執政官に推される。正式に就任するには市民の許諾が必要のため、しぶしぶコリオレイナスは慣例どおり粗末な服を着て市民の前に出る。しかし、護民官のブルータスとシシニアスにけしかけられた市民により、弾劾されてしまう。誇り高いコリオレイナスは、一度は母親のヴォラムニアの説得に応じるものの、市民に謝罪せず追放の身に。自分を追放したローマに復讐するために、コリオレイナスはかつての敵オーフィディアスと手を組むが、再びヴォラムニアの必死の説得で、ローマと和解することを決意する。その彼を待っていたのは……。

『コリオレイナス』
人物関係図(略)



第16弾『コリオレイナス』

【日時】2007年1月23日(火)～2月8日(木)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出】蜷川幸雄 【作】W・シェイクスピア 【翻訳】松岡和子

【出演】唐沢寿明、白石加代子、勝村政信、香寿たつき、吉田鋼太郎、嵯川哲朗ほか

【チケット(税込)】S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 学生席2,000円

【発売日】10月14日(土) ※『恋の骨折り損』と2作品同時購入優先発売 9月30日(土)

日本人の精神性や現代社会に通じる『コリオレイナス』 松岡和子

『コリオレイナス』はジェイムズ朝に入ってから書かれたシェイクスピア後期の作品です。この時期の作品群はエリザベス一世の時代のものよりも暗い影が射していて、『コリオレイナス』も人間を苦味を持って捉えています。けれど、不思議なんです。今、来年の公演に向けて半分以上翻訳したところなんですが、訳していると、読んでいた時とは違う発見がある。これまでのコリオレイナスのイメージは、劇中でローマ市民が見ているのと同じで、好きになれないキャラクターだった。そんなに母親の言いなりにならなくてもいいじゃないかと思ったり。けれどだんだんと彼に肩入れしたくなってくるのです。

確かに彼は傲慢ですが、徹底した反ポピュリズムの人だし、人にも厳しい分、自分にも厳しい。人前で自分が褒められたりすることも嫌がる人で、そういう意味ではこれほど筋の通った人間もいない。筋を通さなくするのは母親なんですね。コリオレイナスはだから、とにかくいろいろな場面で板ばさみになる。貴族として矜持と、大衆との板ばさみになったり、自分の信念と母親の夢をかなえたいという思いとの板ばさみ、ロー

マへの忠誠とオーフィディアスへの信義の板ばさみになったり。そして何重もの板ばさみに結局はつぶされるわけです。観る側からしても、一瞬一瞬で、どちらに肩入れしたくなるかわわるはずです。そこに緊張感が生まれ、観ていてスリルがあると思います。この作品にははっきりとした悪役がいなくて、その人のものの見方や考え方でどうとでもとれる。シェイクスピアは複眼の人ですが、その特徴が最大に発揮された作品ではないでしょうか。

日本人の昔からの精神構造との接点も見つけやすい作品でもあります。名誉や誇りを第一に考えて、それが汚されれば切腹、といったような。武家社会で家名を存続させようとしたのは女だという側面もありますが、それはまさに母ヴォラムニアに通じます。

また、この作品でシェイクスピアはこんなにもメタなことを書いてるんだと改めて驚かされます。政治家やリーダーによって、いかに大衆を含めた国が動かされるか。同時に大衆によっていかに政治家やリーダーが動かされるか。この作品を通して、改めてそういうことを考えさせられます。

唐沢寿明、白石加代子、勝村政信—— 蜷川作品の重要人物たちが創り上げる『コリオレイナス』

『コリオレイナス』の出演には、これまでも蜷川作品の中で重要な役を演じ、蜷川ワールドを具現化してきた俳優たちが名を連ねている。彼らのなにが蜷川を掻き立て、どんな『コリオレイナス』が生み出されようとしているのか。唐沢寿明、白石加代子、勝村政信の3人の過去の蜷川作品から、その魅力と可能性を探ってみた。 文：沢 美也子

「人間・マクベスがいる!」。2001年『マクベス』初演で、私は驚いた。それまでにいろいろな『マクベス』を見てきたが、こんなふうに血の通った生身の人間・マクベスに出会ったことはなかった。それほど唐沢寿明のマクベスは生き生きと、呼吸していたのである。「どこか遠い国の人」「昔のお話」というウソっぽさが微塵もない。同時代の、私たちと同じ人間が、そこにいた。だからこそ、マクベスの恐れや苦悩が、痛いほど伝わってきて胸をえぐる。

シェイクスピアの膨大で難しいセリフには、多くの俳優たちが負けてしまうことがよくある。感情がついていかないか、朗読術に流れるか、どちらにしても、失敗だ。しかし、唐沢（大竹しのぶもそうだが）は違っていた。シェイクスピアへの変な先入観もコンプレックスもなく、真直ぐに作品に向かっていったのだろう。情念に流れない、切り替えの早い演技で、マクベスに新たな命を吹き込んだのだ。

唐沢『マクベス』は蜷川幸雄にとっては大きな冒険だった。すでに評価の高い『NINAGAWAマクベス』がありながら、全く違う『マクベス』に挑戦したのだから。自らの伝説を打ち壊していく蜷川の無謀な冒険を、唐沢は受けてたち、見事なまでに成功させたのだ。

シェイクスピアの全作品を織り込むという、これまた無謀な井上ひさしの大作『天保十二年のシェイクスピア』で中心を担ったのも唐沢だ。リチャード三世と『オセロー』のイアーゴをミックスしたような“佐渡の三世次”役。ダーティー・ヒーローの魅力を自在な演技で存分に見せてくれた。今度の『コリオレイナス』も民衆からは好かれていないいわばダーティー・ヒーロー。高潔であると同時に傲慢な男の悲劇を、唐沢がどう演じてくれるか期待はふくらむ。

『コリオレイナス』の、もう一人の重要人物、彼の母親役は白石加代子。白石も蜷川作品には欠かせない存在だ。『夏の夜の夢』の妖精の女王役、『ベリクリーズ』の語り手

ガワー、女郎屋の女将、『天保十二年のシェイクスピア』の魔女など、多彩な作品に出演している。蜷川が寺山修司の世界に挑戦し、新たな境地を開くことになった『身毒丸』でも、義理の息子に恋する母親を、妖艶に、激しく演じて強い印象を残した。『グリークス』でのアテナ女神を老婆で演じていたのも忘れがたい。人間以上の大きな存在や力を、体現する稀有な女優であり、蜷川の信頼も厚い。同じく、厚い信頼を得ているのが勝村政信。『マクベス』では、マクベスを最後に倒すマクダフを、狂気のごときハイ・テンションで演じた。『天保〜』では、マクベスとオセローを兼ねた「幕兵衛」役で唐沢、白石と共演している。一番最近では『白夜の女騎士』で、志半ばで死んでいく孤独な青年、“その後の信長”を好演。『コリオレイナス』では、コリオレイナスの仇敵を演じる。

唐沢、白石、勝村という蜷川作品にとって、重要な俳優たちが、がっちり共演する『コリオレイナス』は、なんと贅沢な舞台だろう!



『身毒丸』1998年、彩の国さいたま芸術劇場での再演より。



『天保十二年のシェイクスピア』2005年、Bunkamura シアターコクーンにて。



『マクベス』2001年、彩の国さいたま芸術劇場での初演より。

MASANOBU KATSUMURA



『白夜の女騎士』2006年、Bunkamura シアターコクーンにて。右が勝村政信。松本潤、鈴木杏と。

『グリークス』2000年、Bunkamura シアターコクーンにて。

生き生きとした言葉のやりとりが見もの

『恋の骨折り損』 松岡和子

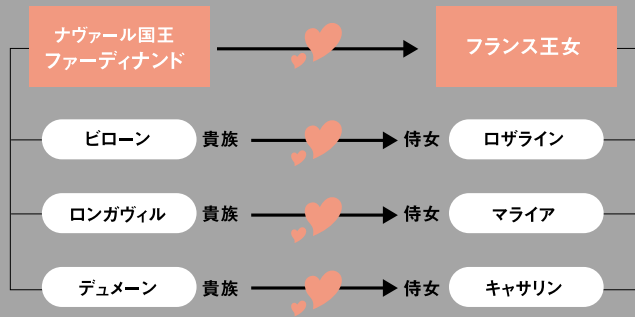
この作品はシェイクスピアの初期のものです。『間違いの喜劇』や『ロミオとジュリエット』『夏の夜の夢』などと近い時期に書かれています。この頃の特徴としては、とにかく言葉遊び全開。言葉があふれるように出てきて、楽しくて楽しくてしょうがないという感じなんです。そういう面にプラスして、『恋の骨折り損』には知的なファクターが入っています。まず、ファーディナント国王と3人の貴族たちは地位だけでなく言わば知的エリートだし、お相手となるフランス王女ら4人の女性たちも負けず劣らずの知性派ぞろい。シェイクスピアに限らず、同時代のほかの喜劇でもそういう要素があるんですが、ウィット・コンバット（機知合戦）が至るところで出てきて、相手の頭の良さをウィットのある言葉の応酬で確かめるということをやる。これが面白いんですね、訳すほうは大変なんです。いまひとつの特徴は、シンメトリカル＝対称的な劇構造です。男性と女性、身分の上下など様々な立場からの様々な意見がウィットを持って闘わされる。それが見どころですね。

シェイクスピアが描く女性たちは、総じて悲劇では男性の支配下に置かれている。マクベス夫人などの例外はありますが、『ハムレット』で父や兄、そして恋人であるハムレットに翻弄されるオフィーリアはその典型です。それとは対照的に、喜劇に出てくる女性たちは男性と対等に渡り合う。『恋の骨折り損』では、対等どころか女性のほうが一枚上手ですから、それもまた面白い。シェイクスピアの時代には、女役も男性が演じていました。蜷川さん演出のオールメール・シリーズでも、多少行儀の悪いことも、きわどいところも男優だと洒落でできてしまうところがあり、喜劇の躍動感が高まりました。今回は男性が演じるころの、生き生きした頭の回転の速い女性たちが観られると思います。

Story

ナヴァール王国の若き国王ファーディナントは、彼の側近である3人の貴族、ピローンとロンガヴィル、デュメーンと共に、女性との交際を一切絶ち、3年間学業に専念する誓約を立てる。ところが、その直後、フランスの王女がお付きの美女3人、ロザライン、マライア、キャサリンを伴い、父王の名代としてナヴァール国王を訪ねてくる。この4人にどうやら一目ぼれしてしまったファーディナントら4人。けれど、誓いを破るわけにもいかず、なんとか人知れず恋を成就させたい若者たちは、内緒でラブレターを書いたり、それがバレたりと四苦八苦。小姓や牧師とも交え、恋の駆け引き合戦を巻き起こすことになる。

『恋の骨折り損』人物関係図（略）



Cast



北村一輝（きたむらかずき）
ファーディナント国王
映画・ドラマを中心に独特の存在感のある演技で注目を集めている。最近の主な出演作にTVドラマ「大奥華の乱」(CX)「夜王」(TBS)「医龍」(CX)、映画「東京フレンズ The movie」 「花田少年史 幽霊と秘密のトンネル」など。



姜暢雄（きょうのぶお）
フランス王女
劇団「Studio Life」に所属し、舞台での活動の他、ドラマ・映画にも活躍の場を広げている。主なテレビ出演作にNHK朝の連続テレビ小説「わかば」など。出演映画「NANA2」が今冬公開される。



窪塚俊介（くぼづかしゅんすけ）
デュメーン
TVドラマ「ビー・バップ・ハイスクール」(TBS)でデビュー以来、映画・ドラマ・舞台などで活躍中。主な出演作として、舞台「歩兵の本領」、映画「火火」「最終兵器彼女」「スケバン刑事 コードネーム＝麻宮サキ」(9月30日公開予定)など。



高橋洋（たかはしやう）
ピローン
1998年「ロミオとジュリエット」に出演して以来、蜷川演出作品には欠かせない俳優の一人として活躍している。最近の舞台出演作に「天保十二年のシェイクスピア」「間違いの喜劇」「白夜の女騎士」「あわれ彼女は娼婦」など。



内田滋（うちだしげ）
ロザライン
舞台「毛皮のマリー」でデビューして以来、舞台を中心に幅広く活動している。彩の国シェイクスピア・シリーズ第15弾「間違いの喜劇」では、エイドリアーナ役を好演した。最近の舞台出演作に「まともなお金の唄」「魔界転生」など。



月川悠貴（つきかわゆうき）
マライア
数々の舞台・テレビの他、コンサートやディナーショーなど歌手としても活動している。また、蜷川演出作品の女役にはなくてはならない存在である。主な舞台出演作に「お気に召すまま」「近代能楽集」「間違いの喜劇」など。



中村友也（なかむらともや）
キャサリン
2005年ドラマデビューした注目の若手俳優。主な出演作としてTVドラマ「風のハルカ」(NHK)「神はサイコロをふらない」(NTV)、映画「七人の弔」「乱歩地獄」「俺は、君のためにこそ死にいく」(2007年公開予定)など。



須賀貴匡（すがたかまき）
ロンガヴィル
映画・ドラマを中心に活躍する他、05年蜷川演出作品「KITCHEN」に出演するなど舞台にも活躍の場を広げている。最近の主な出演作としてTVドラマ「夜王」(TBS)、映画「ウォータース」 「魁!クロマティ高校」など。

第17弾『恋の骨折り損』

【日時】2007年3月16日（金）～ 3月31日（土）

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出】蜷川幸雄 【作】W・シェイクスピア 【翻訳】松岡和子

【出演】北村一輝、姜暢雄、窪塚俊介、高橋洋、内田滋、月川悠貴、中村友也、須賀貴匡ほか

【チケット（税込）】S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 学生席2,000円

【発売日】11月18日（土） ※『コリオレイナス』と2作品同時購入優先発売 9月30日（土）

ダンス界で話題独占の2人を現地取材

アクラム・カーン＋シディ・ラルビ・シェルカウイ

『ゼロ度 zero degrees』

異なる文化や2人の相違が昇華した珠玉の作品

フォーサイスやピナ・バウシュの次は誰か。

ダンス界で次世代探しがされる中、注目を集めているのが、

アクラム・カーンとシディ・ラルビ・シェルカウイだ。

共にソロのダンサーであり振付家としても活躍する2人が、

初めて共同制作をした作品『ゼロ度』がヨーロッパ各地で絶賛されている。

来年1月に彩の国さいたま芸術劇場で初来日公演をする2人を、

公演中だったフランス・リヨンで現地取材。創作の背景を語ってもらった。

取材・文：佐藤友紀

チケットはソールド・アウト。

ヨーロッパで人気沸騰の『ゼロ度』

フランス・リヨンにあるメゾン・ド・ラ・ダンスと言えば、ロビーにモーリス・ベジャールが依頼して作らせた故ジョルジュ・ドンの彫刻が飾られ、首藤康之が初めてマシュー・ボーン版『白鳥の湖』の主役ザ・スワンを踊った、文字通りの“ダンスの館”。ここでロンドンのサドラズ・ウェルズ、パリのテアトル・ド・ラ・ヴィルなどに続いてアクラム・カーンとシディ・ラルビ・シェルカウイの『ゼロ度』が上演されたのは、もう必然だったと言えるだろう。何しろこの2つのダンスの殿堂でも、普段は自分のカンパニーで活動している2人が共同制作したこの作品の人気は断トツで切符はソールド・アウト。今回のリヨン公演でもわざわざパリから観に来たという観客もいたくらいの人気なのだ。

舞台は三方を壁で囲まれた殺風景な箱で上手と下手に各々一体ずつ人間大の人形が置かれている。そこにシンプルなコスチュームに身を包んだアクラムとラルビが現れ、並んで床に腰をおろすと、上半身のジェスチャーと共にある物語を語り始める。それはアクラムがバングラデシュからインドへの旅の途中で経験したショッキングなエピソード。私たち日本人にとっては海外への手形というポジティブなイメージしかないパスポートが、例えばピナ・バウシュの名作『ネルケン（カーネーション）』でも「ナチの時代を思い出す」と、ユダヤの老婦人に言わせてしまったぐらい強烈な扱われ方をしていたように、自分自身の存在が否定されかねない恐怖をもたらすということを改めて感じさせる出来事だ。そして始まる2人のダンス。最初は、どこからともなく聞こえてくるエキゾチックな音楽と共に、さっきまでのジェスチャーの延長のようにさり気ない動きから私たち観客を不思議な世界に誘ううちに、アクラムの異常にキレのいい回転、そしてラルビの人形も真っ青の柔らかい四肢の動きと、コンテンポラリー・ダンスには珍しい超絶技巧が次々に舞台上で披露される。



©Tristram Kenton

そのうち、2人の踊りは「自分たちの身体から型どった」という人形をも巻き込み、「最初は自分たちが人形を操っているけれども、そのうちどっちがリードしているかわからない状態」にまで昇華していく。後方の壁に見えたものは薄い紗幕ということも判明。そこに2人のシルエットが映し出されてより大人数の踊りに見えるほか、バンドのメンバーが浮かび上がってライブ演奏であることもわかるという仕掛けだ。

異なる背景、異なるダンスの2人だから、個性が際立つ作品

「2人で作品を創ろうと考えた時、各々が持つ踊りのニュアンスのようなものを無理矢理統一するのはやめようと話し合ったんだ。むしろ一緒に動いてみればみるほど、踊りの個性が際立った。ならばそれを活かして作品に取り込んでいくべきだと思ってね」

アクラム、ラルビは口々に『ゼロ度』の創作過程を説明する。「僕たちは、各々バングラデシュ系のイギリス人、モロッコ系のベルギー人というデュアル・カルチャーのバックグラウンドを持つ。と同時に、世代的には、MTVに大きな影響を受けた世代というのかな。MTVのあのスピード感、映像の作られ方が、ダンサーとしての自分、振り付けをする時に自分に何らかのヒントを与えているんだ。でも、お手軽な一過性文化の消耗という面ではなく、あくまでも表現形態の一部としてだよ（笑い）」（ラルビ談）

MTVもそうだが、語りと踊りで物語を直接語るという点で、ほかの地方のインド舞踊よりも「少し低く見られているかな」とアクラムが言

うカタカリの要素の反映のさせ方も理想的で、生と死のあわいのようなものまで感じさせてくれた本作。ソロ、そして2人のデュエットの構成の仕方も、静と動の緩急のつけ方の巧みさも目を見張るばかりだ。「僕は13歳でピーター・ブルックの『マハーバーラタ』に出ているんだけど、当時は理解できなかったピーターの死生観、ものの創り方など、今ジワジワッと効いているかもしれないな」というアクラムの言葉が実感できる舞台。

その後、シルヴィ・ギエムとの共演が控えているアクラム、首藤康之に振付作品を提供する予定のラルビと、目下、時の人だ。

● 注釈

1.ウィリアム・フォーサイス…振付家。フランクフルト・バレエ団の芸術監督として、先鋭的な作品を次々発表。現在は自身のカンパニーを主宰。さらに研ぎ澄まされた実験的な作品で世界のトップを走る。

2.ピナ・バウシュ…振付家、ダンサー。ヴッパータール舞踊団の芸術監督として、演劇などの手法を取り入れた独自の表現様式を確立。詩的な作品は、ダンス界のみならず、各界のクリエイターに刺激を与え続けている。

3.モーリス・ベジャール…振付家。20世紀バレエ団の芸術監督として、原初の舞踊を思わせるエロティシズム溢れる数々の作品で、芸術・思想界に多大な影響を与える。現在は、ベジャール・バレエ・ローザンヌを主宰。

4.ジョルジュ・ドン…ベジャールの下で活躍した、両性具有の魅力を持つ伝説的男性ダンサー。特に彼のためにベジャールが振付した「白鳥」は、生命の力強さが溢れる傑作。1992年没。

5.首藤康之…ダンサー。東京バレエ団のソリストとして活躍。ベジャール・バレエ・ローザンヌのツアーに参加するなど海外公演も多く、日本人として初めて、マシュー・ボーン作品にも参加。

6.マシュー・ボーン…振付家。アドベンチャー・イン・モーション・ピクチャーズを設立後、男性ダ

ンサーが白鳥を踊り、独自のストーリーで展開する『白鳥の湖』などで世界的な人気を確立。現在はニュー・アドベンチャーズを主宰。

7.MTV…1981年にアメリカで始まった、音楽専門のケーブルTV。音だけでなく、プロモーション・ビデオなど音楽を映像で見せることとなり、'80～'90年代の世界各国の若者文化に絶対的な影響力を持っていた。

8.カタカリ…インドの四大古典舞踊のひとつ。神話等を題材に歌とダンスでストーリーを展開。そのダンスは呪術的に時に激しく感情を表現する。「カタ」は物語、「カリ」は舞踊を意味する。

9.ピーター・ブルック…演出家。パリのブッフ・ドゥ・ゾール劇場を拠点に、国際演劇創造センターCICTを主宰。『テンペスト』『桜の園』など前衛的な作品を次々と発表し、演劇界をリードするカリスマ。

10.『マハーバーラタ』…古代インドの宗教や哲学、神学の集大成である叙事詩を元にした、ブルック演出の作品。日本でも1988年に公演があり、子供だったアクラムも出演している。

11.『シルヴィ・ギエム』…パリ・オペラ座バレエ団出身のダンサー。高い身体能力とカリスマ性を併せ持ち、バレエ界のトップに立ち続ける。現在は、ロイヤル・バレエ団のゲスト・プリンシパル。

● PROFILE



©Chris Van der Burght

アクラム・カーン Akram Khan(右)
ロンドン生まれのバングラデシュ系イギリス人。西洋コンテンポラリー・ダンスとインドの古典舞踊様式「カタカリ」をユニークに融合させ、異文化を越境する表現活動を精力的に行っている。2000年に、自身のカンパニーを設立。2004年に発表した『ma』でサウス・バンク・ショー・アワードを受賞したほか、受賞多数。現在、ロンドンのサドラズ・ウェルズ劇場のアソシエート・アーティストを務めている。

シディ・ラルビ・シェルカウイ Sidi Larbi Cherkaoui(左)
アントワープ生まれのモロッコ系ベルギー人。コンテンポラリー・ダンスの訓練と平行して、ヒップホップやモダンジャズのグループともセッションを行う。1997年にアラン・プラテル・バレエ団 (Les Ballets C.de la B.) に参加。2000年にLes Ballets C.de la B.に振り付けた『Rien de rien』で、数々の賞を受賞。2002年には『ダヴァン』を共同創作。以降も、『Foi』(2003)、『Tempus fugit』(2004) 等、話題作を次々と発表している。

最注目のダンサー／振付家による奇跡のデュエット アクラム・カーン＋シディ・ラルビ・シェルカウイ

『ゼロ度 zero degrees』

民族の伝統とヨーロッパの文化という二重の背景、不確実なアイデンティティを背負った2人が、葛藤と協調を重ねて切り開く、新たなダンスの地平。超絶技巧に彩られ、詩的な美しさに賞かれた、ダンス界最大の話題作をお見逃しなく。

【日時】2007年1月12日(金) 開演 19:30 13日(土) 開演 16:00 14日(日) 開演 16:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【演目】『ゼロ度 zero degrees』 【振付・演出・出演】アクラム・カーン、シディ・ラルビ・シェルカウイ
【音楽】ニッティン・サウニー 【彫刻】アントニー・ゴームリー
【チケット(税込)】一般 S席5,000円 A席3,000円 学生 A席2,000円
メンバーズ S席4,500円 A席2,700円
【発売日】メンバーズ 10月21日(土) 一般 10月28日(土)

◆『主役の男が女である時』レビュー

「ダンサーの内面を表した いい舞台だった」―森山開次

6月30日～7月2日に彩の国さいたま芸術劇場で行われた、ヤン・ファープルの『主役の男が女である時』には、多くの観客が訪れ、評判となった。この舞台の魅力を、ダンサーで振付家でもある森山開次さんにうかがった。

取材・文：鴨澤章子



©Arnold Groeschel

女性ダンサーがソロで踊る、というくらいの前知識しかなくて観に来たんです。自分でもソロで踊っているからわかるんですが、ソロを観客に飽きさせないで見せるのは大変なことですが、この作品はいろいろな角度から人間を描いていましたね。ダンサーがコメディタッチでしゃべったり、逆にストイックに踊ったり。ヤン・ファープルはまるで昆虫を観察するように、人間をちょっと外側から見ている感じがします。(ファープルの孫であり、自身の美術作品にも昆虫を使ったものがあるなど) ヤンの経歴は見終わってから知ったのですが、なるほどなと妙に納得できて面白かった。もし自分が彼に振付してもらおうとしたら、どういうふう昆虫扱いされたり、道具扱いされるのだろうかと思いをもちました。

ダンサーもよかったですね。こういう作品はともすればクサイ感じになってしまうものですが、彼女のいろいろな側面をヤンがすごく観察しているから、神聖な部分だけじゃなくて、いやな部分を含めて、人間を人間としてちゃんと描けている。裸で踊るシーンもありますが、ここまでダンサーができるのは、振付家との間によほどの信頼関係があるはずで、それはうらやましいことです。裸になっても、女性の身体を下品なものではなく、上品なまま終わらせることができていますから。

僕自身、ダンサーなので、作品の内容より、ダンサーがどういうふうに見えるかに興味があるんです。ダンサーをどれだけ活かしているか、引き出しているか、ダンサーがどれだけ生き生きしているか。ダンサーの中身が見えてくる演出が好きです。その点でも、この作品はス・イム・ハーというダンサーがよく見えてくる。彼女を称えたいですね。芸術とか道徳性とかはどうでもいい。ダンスは、そこに立っている人(ダンサー)と、どれだけ(観客が)共感できるのか、ということだと思います。『主役の男が女である時』で、彼女の身体と観客は対話をしていたと思う。観客が(裸の)恥ずかしさも含めて共感し、集中して観てほしいいい舞台だった。(談)



森山開次 Kaori Morioka
1973年神奈川県生まれ。21歳からダンスを始め、山崎広太・香塚鼓らの国内・海外公演に出演する傍ら、ダンス公演・TVCFなど幅広いジャンルで振付を担当。2001年ソロ活動を開始し、『夕鶴』『弱法師』など和の素材を用いた独自の表現世界を確立。本年9月、ニューヨークで初演した『KATANA』の日本公演を好評のうちに終了し、来年2月にイタリア公演予定。

来年2月にヤン・ファープルの次回作がやって来る！
ヤン・ファープル テキスト・舞台美術・振付

『わたしは血 JE SUIS SANG』～中世妖精物語～

人間の本质は、中世以来、変わっていない！「血」をテーマに描き出される人間の本性。ヤン・ファープルが、美術家としての才能を遺憾なく発揮した舞台は、どのシーンをとっても絵画のように美しい。アヴィニョン演劇祭を震撼させた衝撃作品だ。

【日時】2007年2月16日(金) 開演 19:30
17日(土) 開演 16:00 18日(日) 開演 16:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【演目】『わたしは血 JE SUIS SANG』～中世妖精物語～
【テキスト・舞台美術・振付】ヤン・ファープル
【出演】俳優、ダンサー、ミュージシャン 23名
【チケット(税込)】
一般 S席7,000円 A席5,000円 学生 A席3,000円
メンバーズ S席6,300円 A席4,500円
【発売日】メンバーズ 11月25日(土) 一般 12月2日(土)



©Wongee Bergmann

「源氏語り54帖」 「彩の国さいたま寄席 四季彩亭」 古典の奥深い魅力に触れる

彩の国さいたま芸術劇場は、シェイクスピア・シリーズや、コンテンポラリーダンスの公演で知られる劇場だが、古典の企画にも以前から取り組んでいる。特に人気が高い「源氏語り54帖」と「彩の国さいたま寄席 四季彩亭」に注目、その魅力を探ってみた。

取材・文：鴨澤章子

『源氏物語』すべてを踏破する 壮大な「源氏語り54帖」

「源氏語り54帖」は、54帖に及ぶ『源氏物語』をすべて朗読で聞かせ、さらに解説するという壮大な企画。朗読を女優の幸田弘子さんが、解説はフェリス女学院大学教授の三田村雅子さんが行っている。2001年に始まり、以来、ほぼ2ヶ月に1度の割合で行われて来た公演は、今回は第33回の「柏木」が予定されており、いよいよ佳境に入る。

「このお話をいただいたときは、とても嬉しかったです。『源氏物語』の朗読は、ほかの企画でもありますが、54帖すべてを、しかも原文で朗読するというのは、この劇場だからできることです」

こう語る幸田さんは、舞台朗読の第一人者で、30年以上前から『源氏物語』にも取り組んでいる。その幸田さんにとっても、「源氏語り54帖」は特別な企画だ。実は第1回の公演の1ヶ月前に、幸田さんは突然、くも膜下出血で倒れ、奇跡的に回復したものの、立って歩けないほどの状態を、おして舞台に立ち朗読したという秘話がある。それほど思いでスタートした公演なだけに、思い入れの深さは想像に難くない。

「とにかく長年にわたり続く公演ですから、以来、この公演を最後まで続けることが、私にとっての励みになっています」（幸田さん）

第1回から欠かさず公演に来ているお客さんも多く、公演の度に顔を合わせる楽しみもあるという。三田村さんもこう言う。

「来ている方がみな、『源氏物語』を知ろうと学ぶことに初々しくて前向きなんです。そのことに私の方が逆に励まされます」

「広い視野から見られる方です」と幸田さんが語る三田村さんの解説は、絵巻をスクリーンに投影したり、当時の音楽を再現した演奏



朗読をする幸田弘子さん。その回の源氏物語の内容に合わせ、毎回替えている和服を楽しみにしている観客も多い。

©浅野いずみ

を入れたりと、研究の最前線を取り入れながら、しかもわかりやすく親しみやすいことで知られる。その工夫もあり、原文のまま朗読される千年も前の人々の営みが、現代に生きる我々にも共通するものとして迫ってくる。

「幸田先生の朗読は、現代語のイントネーションで古典を語れるから、生きた形で伝わってくるのだと思います」（三田村さん）

「千年前と言っても同じ日本人ですし、自然描写などは現代と変わりません」（幸田さん）

お二人のコラボレーションにより、鮮やかに蘇る、千年前の壮大な物語は、これからがまた面白い。

「（出世競争に）勝って栄華を極めた光源氏も、年老いてゆくむなしさを抱え、負けた人々もまた悲しい。その陰りゆく美しさが描かれます」（三田村さん）

柏木

柏木は光源氏に呪われたことで、病の床に沈み、命さえあやうくなった。女三宮は年が明けてすぐ男子を産んだが、光源氏の冷たさに将来を悲観して出家する。これを知った柏木は一層絶望し、親友夕霧に光源氏への謝罪と妻女二宮の行く末を託して亡くなった。光源氏は薫五十日の宴に、薫を抱きながら、その面差しに亡き柏木の面影を認め、息子を見ずに亡くなっていった柏木を哀悼し、自ら犯した昔の密通の罪を償おうとする。

横笛

柏木の遺言を受けた夕霧は光源氏にその内容を確かめてみたいと思いながら、その勇気もなく時を過ごしていたのだが、ふとしたきっかけで、亡き柏木が夢枕に立って自分の子への執念を語りかけるのを聞いた。柏木未亡人の母一条御息所に柏木遺愛の笛をもらい笛を吹きながらうたたねをした時のことだった。その笛を遺したい人は他にいと聞いて夕霧が思ったのは女三宮が産んだ薫のことであった。

鈴虫

蓮の花の盛りのころ、六条院で女三宮のための念持仏開眼供養が営まれた。若い盛りで髪を下ろしてしまった女三宮のために、できる限りのことをしてやりたいというのが光源氏の願いであり、紫上もそれに協力した。秋になって鈴虫の鳴き声を聞きながら女三宮に対する捨て切れない思いを打ち明ける光源氏と、女三宮のすれ違いに満ちた関係を八月十五夜の月はどこまでも明るく照らしていた。



©浅野いずみ

学術的にも先端で、しかもわかりやすい解説の三田村雅子さん。NHK教育TV「古典への招待」の講師としてもお馴染み。

時を経て移ろいゆくものと変わらないものを考える、またとない機会となりそうだ。

源氏語り54帖

【日時】第33回:10月1日(日)「柏木」 第34回:12月3日(日)「横笛」
第35回:2007年1月13日(土)「鈴虫」
第36回:2007年3月11日(日)「夕霧」

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【演出】幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:フェリス女学院大学教授)

【チケット(税込)】全席指定 1回券 2,500円
第34～36回連続券 6,600円

【発売日】第34～36回 メンバーズ 9月23日(土・祝)
一般 10月1日(日) ※第33回チケットは発売中

夕霧

夕霧の落葉宮への思いはつるばかりであったが、落葉宮の母一条御息所が病氣治療のため、小野の里に移転すると、夕霧は小野まで訪ね、落葉宮の部屋で一夜を明してしまふ。御息所は心を痛め、この事態を切り開くべく、結婚の承諾の手紙を夕霧に出す。ところが、その手紙は妻雲居雁によって隠されてしまったため、手紙の返事が遅れる中、御息所は夕霧の訪れのないことを恨み、絶望して死に至ってしまった。

究極のエンターテインメント 落語を「彩の国さいたま寄席 四季彩亭」で

ここ数年、若い人たちの間でも人気が出てきている落語。寄席の前で入場を待つ人々が作る行列も今ではよく見られる光景だ。人気脚本家、宮藤官九郎が落語をモチーフにTVドラマを作ったり、人気落語家が大名跡・林家正蔵を継いだりと、落語にスポットライトが当たるようになった理由はいくつも考えられるが、やはり根本は落語そのものの魅力につきるだろう。演劇界でも宮藤以外に限らず落語ファンは多く、劇団「ラッパ屋」を主宰する脚本家の鈴木聡も、新作落語を柳家花緑に提供するほか、当人も高座に立ってしまったほど。一人で何役も演じ分け、長屋でも色町でも、落語家の語りだけでひとつの世界観を創り上げてしまう落語は、まさに究極のエンターテインメント。その奥深い味わいに、改めて気がつく人が増えてきている。

彩の国さいたま芸術劇場でも、12年前の開館当初から落語に着目。志ん朝や小さん、米朝ら当代名人の寄席のほか、若手落語家たちが登場する「拾年百日亭」をシリーズ化し、年間最優秀演者に贈られる「彩の国落語大賞」を設け、三遊亭白鳥や柳家花緑など、今をときめく若手が受賞してきた。昨年から、「彩の国さいたま寄席 四季彩亭」としてリニューアル、若手からベテランまで幅広く紹介し、好評だ。今年中にあと2回公演を予定しており、10月には三遊亭小遊三、12月には春風亭昇太が登場。共にTV『笑点』の大喜利でもお馴染みの2人。どんな高座を見せてくれるか、今から楽しみだ。



「彩の国落語大賞」の受賞者には、三遊亭白鳥(左)、柳家花緑(右)。

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～三遊亭小遊三

ご存じ三遊亭小遊三師匠をお迎えしての秋の「彩の国さいたま寄席」。共演者の皆さんが決まりました。ネタの豊富さには定評のある桂平治さん、声の大ききなら落語界随一の三遊亭遊馬さんの若手噺家に加え、太神楽界の新星 鏡味正二郎さんが華を添えます。どうぞお楽しみに。

【日時】10月21日(土)開演16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【出演】三遊亭小遊三 桂平治 三遊亭遊馬 鏡味正二郎

【チケット(税込)】一般¥3,000 メンバーズ¥2,700
ゆうゆう割引(学生・65歳以上)¥2,000 ※発売中

彩の国さいたま寄席 四季彩亭～春風亭昇太

【日時】12月8日(金) 開演 19:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【出演】春風亭昇太 林家彦いちほか

【チケット(税込)】一般 ¥3,000 メンバーズ ¥2,700
ゆうゆう割引(学生・65歳以上) ¥2,000

【発売日】メンバーズ 10月21日(土) 一般 10月28日(土)

人気のプログラムが 装いも新たに登場！ 小山実稚恵ピアノ・トリオ 夢の響演



© Hideki Otsuka

小山実稚恵さん、堤剛さんとは、彩の国でブラームスのピアノを含めた室内楽で、足掛け5年ご一緒しました。最初はなんと長大な企画であろうか、完結できるであろうかという不安もありました。しかし、最初の年、ピアノ五重奏の音が出ると、熱気を帯びた皆さんの音楽作りに私も啓発されて、すぐ夢中になり、気がついたらあっという間に5年が過ぎた……というのが正直なところ。それだけ「気心が知れてきた」のかも知れません。

今回はブラームスではなく、ベートーヴェンとチャイコフスキーのこれもまた2大名曲を演奏します。小山さんのいつも均整の取れたピアノの響き、堤さんのますます油の乗ってこられた情熱のチェロとの共演、今からワクワクしています。乞うご期待!!

堀米ゆず子 ヴァイオリン Yuzuko Horigome, violin

1980年、ベルギー・ブリュッセルにおけるエリーザベト王妃国際音楽コンクールで、日本人として初めて優勝。ヨーロッパを中心に世界各地でオーケストラとの共演、リサイタルのほか、室内楽にも積極的に取り組み、アメリカのマールボロ音楽祭にしばしば参加、最近ではマルタ・アルゲリッチとも共演している。現在、ブリュッセル王立音楽院客員教授。使用楽器はヨゼフ・ガールネリ・デル・ジェス（1741年製）。



ベートーヴェンの「大公」、そしてチャイコフスキーのトリオというまことにスケールの大きな、しかも密度の濃いプログラムを小山実稚恵さん、堀米ゆず子さんという名手お二人と演奏することが出来ますのは私にとって本当に幸せなこと。お二人はピアノ・トリオという室内乐的な調和を求めながらも同時に、各々がソリストティックな個性をきらめかせ、しかもお互いが競い合うときもあり、ジャンルに最もふさわしい演奏家だと思います。

そこでの私の役割はそのお二人をある時にはサポートし、またある時にはチェロの魅力を発揮させながら競いの中に加わることです。お客様にこの奥深く、エキサイティングなプログラムを十分に堪能して頂けましたら、私たちにとって大きな喜びです。

堤 剛 チェロ Tsuyoshi Tsutsumi, violoncello

1963年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクールで第1位入賞を果たし、以後内外での本格的な活動を開始。現在に至るまで、世界各地でオーケストラとの共演、リサイタルを行っている。これまでに受賞した主な賞としては、『1992年日本芸術院賞』をはじめ、『第2回サントリー音楽賞』、『ウジェーヌ・イザイ・メダル』、『1988年中島健蔵音楽賞』などがある。2001年から霧島国際音楽祭の音楽監督を務めている。2004年4月より桐朋学園大学学長の任にある。

彩の国さいたま芸術劇場で過去10回も公演してきた、人気のプログラム「小山実稚恵と仲間たち」が、今度はピアノ・トリオとして帰ってくる。

ピアノは小山実稚恵さん、ヴァイオリンに堀米ゆず子さん、チェロには堤剛さん。気心の知れた3人が、今から楽しみにしているというこの演奏会。3人からのメッセージを届けよう。

小山実稚恵



堀米ゆず子

堤 剛

小山実稚恵 ピアノ・トリオ 夢の響演

【日時】12月3日(日) 開演15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲名】ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲第7番 変ロ長調 Op.97「大公」
チャイコフスキー:ピアノ三重奏曲 イ短調 Op.50「偉大なる芸術家の思い出に」

【出演】小山実稚恵(ピアノ)／堀米ゆず子(ヴァイオリン)／堤 剛(チェロ)

【チケット(税込み)】一般 S席 4,000円 A席 3,000円 学生 A席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円

【発売日】メンバーズ 9月18日(月・祝) 一般 9月23日(土・祝) ※発売日が変更になりました。訂正しお詫言申し上げます。

モーツァルト・イヤーを 締めくくる究極の公演！ バッハ・コレギウム・ジャパン モーツァルト《レクイエム》

モーツァルトの生誕250周年となった今年を締めくくるにふさわしいコンサートが開かれる。それはバッハを専門とする人気合唱団&オーケストラ、バッハ・コレギウム・ジャパンがモーツァルトに取り組むという公演。その魅力と聴きどころとは？

文：加藤浩子（音楽評論家）

2006年、クラシック界は「モーツァルト・ブーム」に沸いている。故国のオーストリアはもちろんだが、日本での沸騰ぶりも格別で、1月に生地のザルツブルクで行われた生誕250周年記念コンサートも夏のザルツブルク音楽祭も、大勢の日本人でにぎわった。

その喧騒も一段落。秋以降は、モーツァルトが没した12月を中心に、各地で行われる《レクイエム》の演奏が注目を集めそう。

なかでも音楽ファンならぜひ足を運びたいのが、日本の誇るオリジナル楽器の合唱団&オーケストラ、「バッハ・コレギウム・ジャパン」(以下BCJ)の《レクイエム》。指揮者の鈴木雅明が率いるBCJは、その名の通り古楽、とくにバッハを専門とする団体だが、やはり彼らにとっても今年は特別、満を持してモーツァルトに乗り出した。バロックからスタートして、たちまち古典派へとレパートリーを広げてしまう古楽団体の多いなかで、じっくり腰をすえてバッハに取り組んでいるBCJは貴重な存在だが、そのBCJがモーツァルトに進出するからには、万全の演奏を期待していいだろう。彼らの実力は世界でも高く評価されており、これまでにニューヨークのカーネギーホールや、アムステルダム・コンセルトヘボウをはじめとする一流ホールに客演、大喝采を受けている。

モーツァルトの《レクイエム》は、彼のおびただしい作品の

Maki Mori,
soprano
森 麻季
もりまき
ソプラノ



© Yuji Hori

ドンゴに認められ、ワシントン国立歌劇場でアメリカ・デビュー。以来、ワシントンとロスでドンゴ、フォン・シュターデ、アラニーヤと共演し絶賛を博す。小澤征爾、チョン・ミンフンをはじめとする指揮者や内外のオーケストラとの共演も数多い。2007年ドレスデン国立歌劇場《薔薇の騎士》に出演予定。出光音楽賞、ホテルオークラ賞、ワシントン賞受賞。二期会会員。

Marianne Beate
Kiehlund,
alto



マリアンネ・
ベアーテ・
キーラント
アルト

ノルウェー国立音楽アカデミーで研鑽を積み、2001/02年シーズンはハノーヴァー国立歌劇場のアンサンブル・メンバーとして活躍して名声を高め、北欧の主要な歌手の一人としてヨーロッパの数々のオーケストラや音楽祭に定期的に出演している。ヘレヴェッヘ、リリング、ホーネック、リフキンなど著名な指揮者との共演も多い。

Andreas
Weller,
tenor



アンドレアス・
ヴェラー
テノール

シュトゥットガルト児童聖歌隊出身。声楽・指揮法・合唱指揮を学び、ハンブルクではリート・の榮譽賞付きディプロマを取得。リュウベック音楽アカデミーを経て、ブレガルディエン、ゲイジのもと研鑽を積み、エヴァンゲリスト、オラトリオ歌手として国際的に活躍し、ヘレヴェッヘ、クイケン、リリングらと共演している。

Dominik
Wörner,
bass



ドミニク・
ヴェルナー
バス

シュトゥットガルトで教会音楽、フイブルクで音楽学とチェンバロを学ぶ。スイスにて歌とオルガンのディプロマを獲得。2002年、第13回国際バッハコンクール(ライプツィヒ)で優勝。オーケストラとの共演のほか、リート作品への興味も強く、現代曲の初演なども行うなど、そのレパートリーは多岐にわたる。

バッハ・コレギウム・ジャパン モーツァルト《レクイエム》

【日時】12月16日(土) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】モーツァルト:証聖者の荘嚴な晩課
[ヴェスベレ]ハ長調 K339

モーツァルト:レクイエム 二短調 K626
【出演】鈴木雅明(指揮)／森 麻季(ソプラノ)／マリアンネ・ベアーテ・キーラント(アルト)／アンドレアス・ヴェラー(テノール)／ドミニク・ヴェルナー(バス)／バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱と管弦楽)

【チケット(税込み)】 ※発売中
一般 S席 8,000円 A席 7,000円
学生 A席 2,000円

メンバーズ S席 7,200円 A席 6,300円



© K.Miura

Bach Collegium Japan, chorus & orchestra

バッハ・コレギウム・ジャパン

合唱&管弦楽

世界の第一線で活躍するオリジナル楽器のスペシャリストを擁して1990年に鈴木雅明が結成したオーケストラと合唱団。特にJ.S.バッハを中心に、バロック音楽を理想的に上演し、《J.S.バッハ:教会カンタータ全曲録音シリーズ》(スウェーデン・BIS社)などのCDや欧米ツアーも高い評価を得ている。



© shuto mikio

Masaaki Suzuki, conductor

鈴木雅明 すずきまさあき
指揮

東京藝術大学作曲科卒業。同大学院オルガン科修了後、スウェーリンク音楽院へ留学。1990年、オリジナル楽器アンサンブルと合唱団く「バッハ・コレギウム・ジャパン」を結成。数々の受賞の他、01年ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章を受章。03年辻莊一・三浦アンナ記念学術奨励金受賞。現在、東京藝術大学教授。

なかで、抜きん出てドラマティックな作品だ。けれどそれでも、18世紀の宗教音楽であることには変わりはない。BCJの精緻にして伸びやかな合唱、楽器の音色を知り尽くし、それを理想的に響かせる術を心得た演奏家で構成されるオーケストラ、人気沸騰の森麻季に、若手の実力派ドミニク・ヴェルナーやアンドレアス・ヴェラーら豪華なソリストたち、そして何より作品のたたずまいを蘇らせることに情熱を注ぐ鈴木雅明の指揮は、そのことを改めて教えてくれるのではないだろうか。絶対に聴き逃せない公演である。



ピアニスト100

音楽監督:中村紘子
彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

100人を聴く10年、ついにラストシーズンへ。

ピアニストの中村紘子さんの監修により、100人のピアニストを紹介する演奏会は、
彩の国さいたま芸術劇場の人気プログラムのひとつ。96回、97回もそれぞれ聴き逃さないプログラムだ。
文:諫山隆美 (音楽評論家)

「ピアニスト100」シリーズの第96回に登場するのは南仏生まれのシプリアン・カツァリス。レパートリーはとても広いけれど、小品をあこれ散りばめたプログラムにこそ個性を発揮する。ピアノという1台の楽器からこんなにいろいろな音を自在に出せるのは、カツァリスが最高ではないだろうか。ちょっとしたフレーズに魅力を注ぎ、一つ一つの音に強烈な色彩を与え、小さな曲にも鮮やかな光彩でデコレーションする。その表現力はあまりにもリアルで直接的なので、演奏曲目の向き不向きや聴き手からの好き嫌いもあるかも知れないが、しかし楽器から音を引き出す技術では明らかに世界最高の一人であろう。びっくりするような表現も平気で飛び出すが、聴き手は病み付きになると間違いないの名ピアニストである。

96/100 シプリアン・カツァリス (フランス) Cyprien Katsaris

超絶技巧と独特の音楽性 個性溢れる伝説のピアニスト



1951年マルセイユ生まれ。4歳からピアノを学ぶ。パリ・コンセルヴァトワールを首席で卒業。70年チャイコフスキー国際、72年エリーザベト国際各コンクール入賞、74年シフラ国際コンクール優勝。音楽院在学中から天才の誉れ高く、66年シャンゼリゼ劇場の公式デビュー以来、稀代のテクニシャンとして世界的に活躍。オーマンディ、パンスタイン、ラトル、ベルリン・フィル、コンセルト・ヘボウ管等世界一流のアーティストと共演。録音も数多く、ショパンコンクールレコード部門グランプリ他多数受賞。2000年フランス政府叙勲、01年パリ市バーミル・メダル受賞。ユネスコ平和アーティスト。

【日時】10月21日(土) 開演 16:00
【曲目】シューベルト:《3つのピアノ小品》D.946より 第1番 変ホ短調、第2番 変ホ長調
シューベルト=リスト:歌曲 セレナーデ、水車屋と小川、アヴェ・マリア
ハイドン:ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI.35
L.モーツァルト=キャメロン:おもちゃの交響曲
リスト=カツァリス:《2つのチャールダーシュ》より 第2曲<チャールダーシュ・オブスティネ>
ショパン:ワルツ イ短調 Op.34-2、練習曲 ハ短調 Op.25-12、
夜想曲 変ホ長調 Op.9-2、幻想即興曲 嬰ハ短調 Op.66、
子守歌 変ニ長調 Op.57
J.S.バッハ=カツァリス:トッカータとフーガ ニ短調 BWV565
【チケット(税込)】一般 S席 5,000円 A席 4,000円 学生 S席 3,000円 A席 2,000円
メンバーズ S席 4,500円 A席 3,600円

97/100 キム・デジン (韓国) Kim Daejin

知的な演奏 指導者としても名高い韓国の重鎮



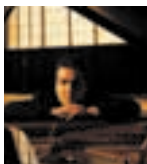
1985年第6回ロベール・カサドシュ(現クリューヴランド)国際ピアノコンクール優勝。86年ニューヨーク・デビュー。87年クリューヴランド管との共演を皮切りに、国際的ソリストとして活躍。ジュリアード音楽院にて、マーティン・キャニン氏の指導のもと修士・修士・博士号を修得。現在韓国国立芸術大学教授として国際コンクールで入賞者を数多く輩出、優れた指導者としても高く評価されている。また国際コンクール審査員としても活躍。2002年韓国音楽協会より「ミュージシャン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれ、韓国東亜日報より「韓国で最も有名なピアニスト」の称号を受ける。

【日時】11月19日(日) 開演 15:00
【曲目】ハイドン:ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI.48
プロコフィエフ:ピアノ・ソナタ第6番 イ長調 Op.82「戦争ソナタ」
ショパン:バラード第1番 ト短調 Op.23、バラード第2番 ヘ長調 Op.38
バラード第3番 変イ長調 Op.47、バラード第4番 ヘ短調 Op.52
【チケット(税込)】一般 S席 3,000円 A席 2,000円 学生 S席 2,000円 A席 1,000円
メンバーズ S席 2,700円

第97回に登場するキム・デジンは韓国のピアニスト。今でこそ国際コンクールで最も有力な参加者が韓国人に最も多いように見受けられるが、キム・デジンは1985年、約20年前のロベール・カサドシュ国際コンの覇者。当時は韓国からもようやく優れたピアニストが目につくようになったころではなかったかと記憶している。現在の韓国若手ピアニストを隆盛を牽引した重要なピアニストこそが、キム・デジンなのだろう。今回のプログラムはハイドンとプロコフィエフという2人の作曲家によるソナタで時代の推移を感じさせ、後半ではショパンのバラード全曲を並べて、ショパンの成熟を追うという充実した曲目で勝負する。韓国のパワーが各曲にどのように反映されるのか、大いに楽しみなところである。

Coming Schedule チケット発売日

No.98～No.99 メンバーズ 9月9日(土) 一般 9月16日(土)
No.100 メンバーズ 1月中旬(予定) 一般 1月下旬(予定)



98/100 アルカディ・ヴォロドス (ロシア) Arcadi Volodos
驚異的・超人的なピアニズム
世界を席巻するヴィルトゥオーゾ
【日時】12月9日(土) 開演 16:00
【曲目】シューベルト:《楽興の年》Op.94 D.780 より 第1曲、第2曲、第5曲
ピアノ・ソナタ第11番 ヘ短調 D.625
リスト:《巡礼の年 第1年 スイス》より <オーベルマンの谷>
《巡礼の年 第2年 イタリア》より <婚礼>
《伝説》より <小鳥に説教するアッジン>の聖フランチェスコ
《詩的で宗教的な調べ》より <葬送>
★中村紘子音楽監督によるトーク付き
【チケット(税込)】一般 S席 5,000円 A席 4,000円
学生 S席 3,000円 A席 2,000円
メンバーズ S席 4,500円 A席 3,600円



99/100 レイフ・オヴェ・アンズネス (ノルウェー) Leif Ove Andsnes
音楽への直截な情熱
傑出した存在感をもつ北欧の俊英
【日時】2007年2月10日(土) 開演 16:00
【曲目】シベリウス:キュリッキ 3つの抒情的小品 Op.41
グリーグ:ノルウェー民謡による変奏曲形式のバラード ト短調 Op.24
シェーンベルク:6つの小さなピアノ曲 Op.19
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 Op.111
★中村紘子音楽監督によるトーク付き
【チケット(税込)】一般 S席 4,000円 A席 3,000円
学生 S席 2,000円 A席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円



100/100 第6回浜松国際ピアノコンクール最高位受賞者
Winner of the 6th Hamamatsu International Piano Competition
ピアノ界の未来を託して
歴史的瞬間を刻むのは果たして…!
【日時】2007年3月 ※コンクール本選後に決定
【チケット(税込)】一般 S席 3,000円 A席 2,000円
学生 S席 2,000円 A席 1,000円
メンバーズ S席 2,700円

～PICK UPでは紹介しきれなかった、公演情報～

現代中国の多様な側面に触れる

「可愛い彩の国さいたま中国映画祭2006」

急速な近代化で、人々の生活の隅々まで変化の最中にある中国。中国や中華圏の映像作家たちは、その変化を様々な視点から捉え、多くの秀作を生み出している。そんな作品の中から5作を厳選。世代間の相克から現代の若者の描写まで、まさに“今”の息遣いが聞こえるような映像をお楽しみに。

.....

『緑茶』A

女子大生ウーファンと見合いをしたミンリャンは、彼女に惹かれていく。彼は同じ頃ランランという女性と知り合う。二人の女性はよく似ているが、性格は正反対。ミンリャンは二人が同一人物ではないかと疑う。

◆監督:張元(チャン・ユアン)
◆出演:姜文(ジャン・ウエン)、趙薇(ピッキー・チャオ)、方力鈞(ファン・リジュン)ほか
(2002年 キネティック 89分)



©保利華億傳媒文化有限公司

『シヨンヤンの酒家』みせ B

シヨンヤンは重慶の古慶街で屋台を切り盛りしている。親族がみな一身上の問題を抱えているため、彼女には悩みが多かった。ある日、シヨンヤンは古慶街が取り壊されるなどの情報を知るのだが…。

◆監督:霍建起(フオ・ジェンチ)
◆出演:陶紅(タオ・ホン)、陶澤如(タオ・ザール)ほか
(2002年 角川ヘラルド映画 106分)



MUSIC 11.3

「幸田浩子ソプラノ・リサイタル」

若手ソプラノ歌手幸田浩子と作曲家でピアニストの野平一郎との夢のリサイタル。彼女が大好きで長年歌いこんできたヘンデルの名曲の数々、名手同士の共演が望まれるリストの《ペトラルカの3つのソネット》、そして彼女のために作られたというドンギアの《カリヨン》など、多彩なプログラムで、至福のひとつときをお過ごしください。

◆11月3日(金・祝) 開演 16:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:ヘンデル:歌劇《セルセ》より
“なつかしい木陰よ”

リスト:ペトラルカの3つのソネット S270
ドヴォルジャーク:ジプシーの歌 Op.55ほか
◆チケット(税込):一般 3,000円 学生席 1,000円
メンバーズ 2,700円

◆発売中



©北山宏一

MUSIC 11.18 光の庭プロムナード・コンサート

「オルガン・ミニ・コンサート」

土曜の昼下がり、やわらかい光が差し込む情報プラザで開催している「光の庭プロムナード・コンサート」。次回11月は、オルガンとソプラノの共演です。

◆11月18日(土) 開演 14:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
◆曲目:モーツァルト:アンダンテ ヘ長調 K616ほか
◆出演:佐藤礼子(オルガン)、高橋絵理(ソプラノ)
◆入場無料



©加藤弘弘

『上海家族』C

15歳のアーシャの母は家庭を省みない夫と離婚し、実家へ戻る。やがて母は娘のために再婚するが、うまくいかずにまた娘と実家に戻ることになる。しかし、もはや実家に母と娘の居場所はなかった…。2003年トリノ国際女性映画祭最優秀作品賞受賞作。

◆監督:彭少蓮(ボン・シャオレン)
◆出演:周文倩(チョウ・ウェンチン)、呂麗萍(リュ・リーピン)ほか (2002年 東宝東和 96分)



『五月の恋』D

人気バンド、メイティのギタリストの弟として兄に劣等感を感じながら怠惰な生活を送るアレイ。ある日メイティのサイトでファンからのメールに「僕がボーカルのアシンだ。」と嘘をついてしまう。

◆監督:徐小明(シュ・シャオミン)
◆出演:陳柏霖(チェン・ボーリン)、劉亦菲(リウ・イーフェイ)、五月天(メイティ)ほか
(2004年 トルネードフィルム 110分)



©2005 Elite Group(2004) Enterprises Inc.

『単騎、千里を走る』E

高田剛一は、民俗学者である息子のやり残した仕事である三国志の関羽にまつわる仮面劇「単騎、千里を走る。」を撮影するために単身、中国の麗江市を訪れる。中国の奥地への長旅の中で高田を待つものは…。第18回東京国際映画祭オープニング作品。

◆監督:張芸謀(チャン・イーモウ)
◆出演:高倉健、寺島しのぶ、ジャン・ウェンほか
(2005年 東宝 108分)



◆上映スケジュール

	10:40～	13:40～	16:10～	18:40～	会 場	
10月17日(火)	A	D	C	E	埼玉会館	小ホール
10月19日(木)		C	C	D		
10月20日(金)	C	A	E	B	彩の国さいたま芸術劇場映像ホール	
10月21日(土)	E	B	D	A		
10月22日(日)	D	E	B	C		

※10/17(火) Aの回には、中国映画字幕翻訳家水野衛子先生による講演があります。

◆チケット(税込):全席自由 一般 前売1回券700円(当日200円増) 前売4回券2,000円
高校生以下 前売1回券500円(当日200円増) 前売4回券1,200円
※中国映画祭チケットは、窓口販売のみとなります。

CINEMA 12.9 彩の国シネマスタジオ

『ホテル・ルワンダ』



世界では今日も様々な事件が起こっている。「怖いね」「悲しいね」とつぶやくだけで、次の瞬間にはいつもの日常に戻っている。しかし、その日常は常に世界と地続きなのだ…。1994年、アフリカのルワンダで民族間の対立が発展した大虐殺事件が発生した。欧米や国連までもが「第三世界の出来事」とこの悲劇を黙殺する中、ひとりのホテルマンの良心と勇気が奇蹟を生む。「愛する家族を守りたい。」そのただ1つの強い思いが殺されゆく運命にあった1200人の命を救った…。見逃してはくれない真実のドラマです。

◆12月9日(土) 10:00/13:00/16:00/19:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督:テリー・ジョージ 脚本:テリー・ジョージ・ケア・ピアソン
◆出演:ドン・チードル、ソフィア・オコネド、ニック・ノルティ、ホアキン・フェニックスほか
(2004年 南アフリカ=イギリス=イタリア 122分)
◆チケット(税込):全席自由 前売 一般1,000円 小中高生800円 当日 各200円増
◆発売日:9月16日(土)

CINEMA 1.13 彩の国シネマスタジオ

©Jürgen Okzyk

『白バラの祈り』



1943年のナチス政権下、ミュンヘン大学で生物・哲学を専攻する学生ゾフィー・ショルが、同大学医学部の学生であった兄ハンスと一緒に学内で反政権を内容とするピラをまき、ゲシュタポに捕まり、取調・裁判・処刑されるまでの6日間に焦点をあてたドキュメンタリー映画。「白バラ」と称する非暴力で反政権・戦争終結を主張する学生運動。彼女が特に政治に偏向していたというわけでもなく、ただ、おかしいと思った者をおかしいという勇気があったという「普通の大学生」として描かれているだけに、余計に「私だったら…」と考えさせられる。

◆1月13日(土) 10:00/13:00/16:00/19:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督:マルク・ローメント
◆出演:ユリア・エンチン、アレクサンダー・ヘルト、ファビアン・ヒンヌフリフス、アンドレ・ヘンニクほか
(2005年 ドイツ 121分)
◆チケット(税込):全席自由 前売 一般1,000円 小中高生800円 当日 各200円増
◆発売日:9月16日(土)

MUSIC

埼玉会館ファミリー・クラシック 仲道郁代 ピアノものがたり

◆9月18日(月・祝)開演 14:00 ◆埼玉会館 大ホール ◆出演:仲道郁代(ピアノ)
◆曲目:ドビュシー:《ベルガマスク組曲》より<月の光>／モーツァルト:ピアノ・ソナタ第11番 イ長調「トルコ行進曲」
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第14番 嬰ハ短調「月光」
ショパン:幻想即興曲 嬰ハ短調、夜想曲第20番「レント・コン・グラン・エスプレシオーネ」、ポロネーズ第6番 変イ長調「英雄」
シューマン(リスト編曲):《ミルテの花》より<献呈>変イ長調／リスト:メフィスト・ワルツ第1番
◆チケット(税込):一般 大人3,000円 こども(3歳以上高校生以下)2,000円 メンバース 大人2,700円
※親子セット(大人1枚+こども1枚)4,500円 ※3歳未満のお子さまのご入場はご遠慮ください



DANCE

オーストラリアン・ダンス・シアター『HELD』

◆9月30日(土)開演 19:00 10月1日(日)開演 16:00◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
◆『HELD』構成・演出・振付:ゲアリー・スチュワート 出演:オーストラリアン・ダンス・シアター、ロイス・グリーンフィールド(写真家)
◆チケット(税込):一般 S席 5,000円 A席3,000円 学生A席2,000円 メンバース S席4,500円 A席2,700円



CULTURE

源氏語り54帖

◆第33回／柏木(かしわぎ)10月1日(日) 第34回／横笛 12月3日(日) 第35回／鈴虫 2007年1月13日(土) 第36回／夕霧 2007年3月11日(日)
各回とも14:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール ◆出演:幸田弘子(朗読)、三田村雅子(解説／フェリス学院大学教授)
◆チケット(税込):全席指定 1回券 2,500円 第34～36回連続券 6,600円 ◆発売日(34～36回):メンバーズ 9月23日(土・祝) 一般 10月1日(日)



DANCE

日本昔ばなしのダンス 近藤良平／伊藤千枝 《子供と大人のためのダンス》日本昔ばなしにダンスで挑戦!!

◆10月7日(土)開演 14:00／17:00 8日(日)開演 14:00／17:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場
◆『ねずみのすもう』振付:近藤良平 出演:鎌倉道彦、藤田善宏、山本光二郎(「コンドルス」選抜メンバー)
「へっこきよめ」振付:伊藤千枝 出演:山田郷美、篠崎芽美(「珍しいキノコ舞踊団」選抜メンバー)
◆チケット(税込):全席自由 大人(高校生以上)2,000円 子供(3才以上中学生以下)1,000円 ※3歳未満のお子さまは入場できません。



PLAY

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～三遊亭小遊三

◆10月21日(土)開演 16:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆出演:三遊亭小遊三、桂平治、三遊亭遊馬、鏡味正二郎
◆チケット(税込):一般 3,000円 メンバース 2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上)2,000円



MUSIC

幸田浩子ソプラノ・リサイタル

◆11月3日(金・祝)開演 16:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:ヘンデル:歌劇《セルセ》より“なつかしい木陰よ”／リスト:ペトルカの3つのソネット S270／ドヴォルジャーク:ジプシーの歌 Op.55 ほか
◆出演:幸田浩子(ソプラノ)、野平一郎(ピアノ) ◆チケット(税込):一般 3,000円 学生 1,000円 メンバース 2,700円



MUSIC

バッハ・コレギウム・ジャパン モーツァルト《レクイエム》

◆12月16日(土)開演 16:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:モーツァルト:証聖者の荘厳な晩課「ヴェスベレ」ハ長調 K339／モーツァルト:レクイエム 二短調 K626
◆鈴木雅明(指揮)、森 麻季(ソプラノ)、マリヤンネ・ベアーテ・キーラント(アルト)、アンドレアス・ヴェラー(テノール)、ドミニク・ヴェルナー(バス)
バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱と管弦楽)
◆チケット(税込):一般 S席 8,000円 A席 7,000円 学生 A席 2,000円 メンバース S席 7,200円 A席 6,300円



MUSIC

「ピアニスト100」

No.96 シプリアン・カツァリス Cyprien Katsaris (フランス)

超絶技巧と独特の音楽性 個性溢れる伝説のピアニスト

◆10月21日(土)開演 16:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:シューベルト:《3つのピアノ小品》D.946より 第1番 変ホ短調、第2番 変ホ長調
シューベルト=リスト:歌曲 セレナーデ、水車屋と小川、アヴェ・マリア／ハイドン:ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI-35
L.モーツァルト=キャメロン:おもちゃの交響曲／リスト=カツァリス:《2つのチャールダーシュ》より 第2曲<チャールダーシュ・オプスティネ>
ショパン:ワルツ イ短調 Op.34-2、練習曲ハ短調 Op.25-12、夜想曲 変ホ長調 Op.9-2、幻想即興曲 嬰ハ短調 Op.66、子守歌 変ニ長調 Op.57
J.S.バッハ=カツァリス:トッカータとフーガ 二短調 BWV565
◆チケット(税込):一般 S席5,000円 A席4,000円 学生 S席3,000円 A席2,000円 メンバース S席4,500円 A席3,600円



No.97 キム・デジン Kim Daejin (韓国)

知的な演奏 指導者としても名高い韓国の重鎮

◆11月19日(日)開演 15:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:ハイドン:ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI-48／プロコフィエフ:ピアノ・ソナタ第6番 イ長調 Op.82「戦争ソナタ」
ショパン:バラード第1番ト短調 Op.23、バラード第2番 ヘ長調 Op.38、バラード第3番 変イ長調 Op.47、バラード第4番 ヘ短調 Op.52
◆チケット(税込):一般 S席3,000円 A席2,000円 学生 S席2,000円 A席1,000円 メンバース S席2,700円



No.98 アルカディ・ヴォロドス Arcadi Volodos (ロシア)

驚異的・超人的なピアノニスム 世界を席巻するヴィルトゥオーゾ

◆12月9日(土)開演 16:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:シューベルト:《楽興の時》Op.94 D.780より 第1曲、第2曲、第5曲、ピアノ・ソナタ第11番 ヘ短調 D.625
リスト:《巡礼の年第1年 スイス》より<オーベルマンの谷>、《巡礼の年第2年 イタリア》より<婚礼>
《伝説》より<小鳥に説教するアッジの聖フランチェスコ>、《詩的で宗教的な調べ》より<葬送> ★中村紘子音楽監督によるトーク付き
◆チケット(税込):一般 S席5,000円 A席4,000円 学生 S席3,000円 A席2,000円 メンバース S席4,500円 A席3,600円



No.99 レイフ・オヴェ・アンズネス Leif Ove Andsnes (ノルウェー)

音楽への直截な情熱 傑出した存在感をもつ北欧の俊英

◆2007年2月10日(土)開演 16:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:シベリウス:キュッキュー 3つの抒情的小品 Op.41／グリーグ:ノルウェー民謡による変奏曲形式のバラードト短調 Op.24
シェーンベルク:6つの小さなピアノ曲 Op.19／ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 Op.111 ★中村紘子音楽監督によるトーク付き
◆チケット(税込):一般 S席4,000円 A席3,000円 学生 S席2,000円 A席1,000円 メンバース S席3,600円 A席2,700円



チケットの購入方法について

窓口 販売
各会場(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)チケット販売窓口にて、3会場のチケットをお買い求めいただくことができます。

窓口営業時間
彩の国さいたま芸術劇場 10:00～19:00(休館日を除く)
埼玉会館 10:00～19:00(休館日を除く)
熊谷会館 10:00～17:00(休館日を除く)

電話 予約&販売
チケットの電話でのご予約は、財団チケットセンターにて承っております。
※埼玉会館、熊谷会館ではチケットの電話予約は行っておりません。

チケットセンター営業時間
財団チケットセンター
048-858-5511 10:00～19:00(休館日を除く)

インターネット販売
ホームページ(<http://www.saf.or.jp/>)から、空席状況の検索、チケットの購入ができます。

インターネット営業時間
メンバーズ優先予約は初日の10時より、一般発売も初日10時より受付開始し、公演前日の19時に発売は終了いたします。

チケット代の支払い方法

- 窓口 現金、クレジットカード
- 電話 現金、クレジットカード、コンビニエンスストア振込
- インターネット クレジットカードのみ
- ・コンビニエンスストア振込でのお支払いの場合、入金確認後、チケットを発送いたします。
- ・お支払いいただく代金は、チケット代金+セキュリティバック代(400円)になります。
- ・各館で、電話予約済みのチケットをご精算、お引き取りいただけます。
- ・当日券のご精算にもクレジットカードがご利用いただけます。
- メンバーズは口座引落になります。

セット券、連続券、学生券などの割引サービスについて
●セット券・連続券は、原則として前売りのみ(開催日の前日まで)のお取り扱いです。
●学生券をご利用の際は、チケット購入時・公演当日とも学生証をご持参ください。
●各種チケット割引サービスは併用できません。

ご注意及びお願い事項

- チケット発売初日の窓口での購入枚数、お電話でのご予約枚数を制限させていただく場合がございます。チケット発売初日の電話予約は1度のお電話で、1公演のみに制限させていただきます。また、チケット発売初日はお席のご案内はいたしていません。あらかじめご了承ください。
- チケットご予約後のキャンセル・変更・再発行は一切行っておりません。
- チケット紛失の際は、チケットセンター(電話:048-858-5511)にお問い合わせください。

『サポーター会員』入会のご案内

財団法人埼玉県芸術文化振興財団では、設立以来10年間、事業活動を通じて県民の皆さまをはじめとして舞台芸術を愛する多くの方々に優れた作品を数多くご提供してまいりました。一方、自ら舞台芸術を制作される県民の皆さまに対しても、日々の稽古の場、練習の場として、またその成果の発表の場として様々な応援をさせていただいております。彩の国さいたま芸術劇場をはじめ、埼玉会館、熊谷会館の企画・運営につきましては、主として埼玉県から大きな支援を受けておりますが、さらに充実した活動を行うためには、多くの法人・篤志家の方々の財政面でのご協力が必要といたしております。埼玉県の芸術・文化活動を推進してゆくうえで、県民の皆さまの暖かいご支援を賜りたく、2005年4月から『サポーター会員制度』を導入いたしました。すでに、多くの県内企業の方々にご賛同いただき、ご入会いただいております。

■年会費について
1. 特別サポーター会員 年会費(1口) 300万円(消費税込)
2. サポーター会員 年会費(1口) 10万円(消費税込)
※ご希望により何口でもお申し込みいただけます。有効期限は、入会月から1年間となります。

■『サポーター会員』の特典
●特別サポーター
(1) 劇場サポーターボードへのロゴ・社名掲出
(2) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」、ホームページへの社名掲出
(3) アーティストとのレセプション・パーティへのご招待
(4) 御社主催コンサート・ワークショップなどの主催(出演料別途)
(5) 財団主催公演のご招待(全公演2席程度)
(6) 自主事業公演チケットの20%割引販売
(7) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」定期購読

●サポーター(法人・個人)
(1) 劇場サポーターボードへの社名掲出
(2) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」、ホームページへの社名掲出
(3) 財団主催公演のご招待(1口10万円につき3万円程度の特定公演にご招待)
(4) 自主事業公演チケットの20%割引販売
(5) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」定期購読

■サポート企業一覧(50音順 7月末現在)
アサヒ印刷(株)／(株)アルビーノ
浦和ロイヤルバインズホテル／FM NACK5
(株)エフテック／(株)オメダム／金井大道具(株)
(株)亀屋／カヤバシステム マシナリー(株)
クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)
(有)香山壽夫建築研究所／(有)嘉賀設計工務
埼玉新聞社／埼玉トヨタ自動車(株)／埼玉りそな銀行
JA/JA埼玉県信連／(株)十万石 ぶくさや／(株)スズゼン
ソシエテ ジェネラル アセットマネジメント(株)
(株)タムロン／東京ガス(株)
東京電力(株)埼玉支店／東芝ライテック(株)
(株)テレビ埼玉ミュージック／日本データコム(株)
(株)パンフィックアートセンター／(株)ビルメン
武州ガス(株)／(株)松本商会／武蔵野銀行
森平舞台機構(株)／リズム時計工業(株)
(株)八木橋／(株)与野フードセンター

(財)埼玉県芸術文化振興財団 メンバーズ特典

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館共通のメンバーズに入会すると、「便利」で「楽しい」特典がもれなく付いてきます。

年会費:2,000円
メンバーズ料金
財団主催公演で3,000円以上のチケットは10%OFF

財団情報誌
彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館で行われる公演情報が掲載されている、情報誌がお手元に届きます。

優先予約
一般発売日より早く、チケットをご予約いただけます。

プレオーダー
人気公演はメンバーズの優先予約に先駆けてプレオーダー。
※指定席の場合、お席は抽選になります。

レストランでの割引
彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館のレストランでのお食事が2名様までが10%OFF。

ポイント制度
チケットを購入するとポイントが貯まります。貯まったポイントはチケットと交換することができます。※チケット購入金額10円につき1ポイント。1ポイント1円にて換算されます。

キャッシュレス
チケット代金、年会費のお支払いは、ご登録いただいた口座からの口座引落になります。

チケットの安心無料送付
ご購入いただいたチケットは、セキュリティバックにてお届けいたします。

その他
ジョン・レノン・ミュージアム(TEL 048-601-0009)への入場料金が割引になります。
大人 1,500円→1,300円
高大生 1,000円→800円
小中学生 500円→400円

表紙 蛭川幸雄演出「コリオレインス」出演
唐沢寿明、白石加代子、勝村政信
撮影:川田洋司
裏表紙 ロイス・グリーンフィールド ダンス写真展
「Airbone エアボーン～中空のボエジー」
編集 鴨澤章子


発行日:2006年9月15日
禁無断転載
©(財)埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15,September 2006
All Rights Reserved
by Saitama Arts Foundation

彩の国さいたま芸術劇場

〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515
電車でのアクセス JR埼京線与野本町駅(西口)下車 徒歩7分
または①番乗り場からバス
新宿から快速で27分、各駅停車で36分
大宮から快速で4分、各駅停車で6分(通勤快速は停車しません。)
駐車場 155台 最初の1時間無料 それ以降は300円/時間
※駐車台数に限りがあり、劇場周辺にも一般の駐車場はございますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

埼玉会館

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477
電車でのアクセス JR京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分
上野駅から各駅停車で27分 大宮駅から各駅停車で8分
駐車場 39台(うち車イス専用駐車場2台) 300円/時間 高さ2mまで
※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

熊谷会館

〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
電話:048-523-2535 ファックス:048-523-2536
電車でのアクセス JR高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分
大宮駅から37分
自動車でのアクセス 関越自動車道松山インターより16Km
※無料駐車場あり。ただし、地方庁舎と合同の駐車場なので、催事によっては駐車できない場合もあります。ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

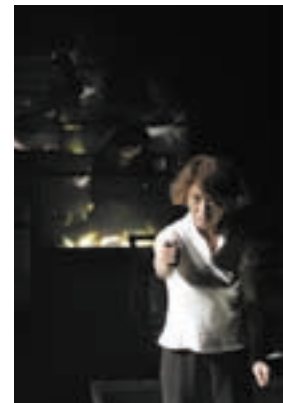
さいたまゴールド・シアター中間発表会「Pro・cess ～途上～」

団員たちはかく闘い、かく成長せり

5月に、「さいたまゴールド・シアター」としてスタートして3カ月。「公共の劇場として、どんなことをやっているのか公開した方がいい」との、埼玉県芸術文化財団芸術監督である蜷川幸雄の考えにより、「Pro・cess ～途上～」と題した中間発表会が行われた。7月28日から8月1日まで計6回の公演に向け、蜷川を始め、振付やヴォイス指導などの講師陣も総力を挙げ、連日のように熱の入った稽古が行われた。団員たちはいかに闘い、いかに成長したか。発表会の模様と共にリポートする。

写真:幸田森 取材・文:鴨澤章子

本番初日。167席の会場は満員御礼。入場から拍手が沸き起こる中、演技が始まる。水槽の中に全員手足を縮めこませて入る姿は胎児そのもの。赤ちゃんの泣き声が音楽と共に場内を流れる中、やがて胎動し、光へ外へ向けて手は伸ばされ、必死に外に這い出てくる。ゆっくりと四つん這いで歩き始め、よろめきながらも立ち始める。歩き出す。



次第に歩みは速くなり、全力疾走に。そしてまた、動きはゆっくりとなっていく、やがてはまた水槽の中に身を委ねる……。これまでの長い人生を思わせる演出に静まりかえる場内に、最初のセリフが響く。「誰だ。名を名乗れ。答えろ」。『ハムレット』からとったこのセリフ以降、団員たちが次々に立ち上がり、セリフを言う。何作かの脚本からとったセリフも、言う人自身の言葉に聞こえるほど、その人の人生を思わせ、説得力がある。「私、

今ではすっかり女優なの」「私みたいに不幸なことばかり続くとそれが当たり前になって～」……。団員たちは客席にも伝わるほど緊張している。しかし、途中、セリフに詰まったり、間違えたりすることもあったものの、笑いもところどころで起き、団員も観客も集中力は途切れなかった。舞台はやがて、輪唱のような28組による『明日そこに花を挿そうよ』のシーンに。そして最後、全員が一人ずつ自分の名前と年齢を高らかに言う中、感動が広がり舞台は締めくくられた。観客たちの暖かい拍手を受ける団員たち。ここまで来る道のりは決して平坦なものではなかった。

自分たちの人生を重ねていけば、どこにもない何かを発見できる

7月10日 中間発表会のための台本が団員たちに手渡され、セリフが各々に割り振られる。5月に「さいたまゴールド・シアター」がスタートする前から、レッスンを開始して3カ月後を目処に中間発表会をすることは予定されてはいたものの、台本を手にした時に、その実感を団員たちの多くは抱いたに違いない。シェイクスピア、チャーホフ、ラ



ンボー、寺山修司などの脚本から蜷川幸雄がセリフを抜き出し、組み合わせたユニークな台本だ。

台本と同時進行で、今までほとんどの授業を受けてきた彩の国さいたま芸術劇場の大稽古場に、セットも組み上がった。アクリルでできた水槽のようなセットが人数分。下にはライトが組み込まれ、暗い中でボーッと浮き上がる様は、空間に浮遊するようで美しい。「安藤忠雄さんの建築と似ていて、無機質だけれどきれいでしょ。そこに人間が入ると少し人間くさくなる」(蜷川)

7月13日 セットでの初めての稽古で、蜷川による立ち稽古が始まる。実際にセリフを言わせながら、セリフを削ったり、増やしたり、順番を変えたりを繰り返していく。まだ渡されたばかりの台本を暗記するのは、たとえ若い役者でも難しいことに違いない。それを2回目で、もう台本なしでやるという蜷川。

7月28日に行われた、さいたまゴールド・シアター中間発表会「Pro・cess ～途上～」より。左端から団員の田村律子さん、小川喬也さん、渡部純二さん、柴田綾子さん。下は全員が水槽の中に立ち上がるシーン。深いしわが刻まれた顔、少し曲がった腰……。それらすべてが掛け値なしに格好いい。年齢を重ねることが素敵に思えた瞬間だ。



「台本を離す勇気も必要なんだよ」時には「下手くそ」「ちゃんと(セリフの)音を上げろ。音上げるのも勇気なんだよ、いくじなし!」と檄が飛ぶ。蜷川からきつい言葉が飛び出すのも、それだけ熱が入っている証拠だ。しかし、団員たちはセリフを言うだけでもまだ精一杯。感情を表現するように踊るシーンでは、どう身体を動かしたらよいのか、とまどう場面も。

「今まで見たダンスの概念を忘れて、自分たちの人生を重ねていけば、どこにもない何かが発見できるのではないか」

そう励ます蜷川はまたこうも言う。

「みんな、もうちょっと先に行けるはず。(演じることによって)違う自分に出会っていけるのは嬉しいものだよ」

そんなんじゃ、お客さんに500円返さなくちゃいけない

7月21日 本番をほぼ1週間後に控えても、まだまだセリフが出てこなかったり、動きも時に緩慢な団員たちに対し、蜷川は秘策に打って出た。その秘策とは、若い役者2人。後半部分で、今までずっと蜷川のレッスンで取り組んできた、清水邦夫作『明日そこに花を挿そうよ』のチー子と灸のシーンを全員、計27組で繰り返し演じるのだが、そこに若い2人の組を投入したのだ。原田琢磨(23歳)と前川遙子(24歳)。共に蜷川が率いる演劇集団「ニナガワ・スタジオ」の役者であり、ハイティーンであるという設定のチー子と灸に近い年齢の2人の存在は、稽古場に刺激を与えるに十分だった。完璧なセリフ、テンポのいいやりとり、素早い動き……。けれど一方では、年老いた人が演じるチー子と灸の違いがより際立ち、それもまた蜷川のひとつの狙いだ。「若い人の動きやテンポはなかなか真似できないけど、若かった時のことを感じて、経験したことを生かせば、この脚本を解釈できると思います」(団員の宮田道代さん)

7月25日 衣裳をつけての初めての稽古。衣裳は、「“今の自分”が一番見えやすい服」(蜷川)で、自前のものだ。もう本番は3日後とあって、泰然としていたように見えていた団員たちにも、さすがに焦りの色が見え始める。休憩時間の合間にも、各々セリフの気になる部分を自主的に練習する姿が目につく。実際のところは、舞台稽古が始まり、



SAITAMA GOLD THEATER



1 稽古で、団員たちに手取り足取り教える蜷川幸雄。 2 蜷川のダメ出しを真剣な表情で聞き入る団員の百元夏繪さん。 3 初日当日、団員たちに本番に向け最後に話をする蜷川。「あとは頼むよ」。 4 初めての本番を終えたばかりの、高揚した顔、緊張した顔の団員たち。 5 楽屋に戻り、観に来ていた友人から花束をもらい嬉しそうな団員の神尾富美子さん。左は共演した原田琢磨さん。 6 初日本番後、楽屋に来た蜷川さんを迎える団員たち。自然に拍手が巻き起こる。

団員たちは、日々、急激に成長して来ているように見える。3カ月前に初めて演劇を始めた人も多いのだから、それを思うと格段の差だ。演出はもちろん、照明や大道具などプロの人たちの仕事に支えられることで生まれた、“役者”としての自覚がそうさせるのだろうか。しかし、蜷川が目指すものは、もちろん、もっともっとはるかに高い。

「そんなじゃ、お客さんに500円返さなきゃいけないよ」

今回の発表会の入場料は1,000円だ。「タダだと予約だけで来ない人もいないかもしれないし、お客さんにも育ててもらおうと思って」という蜷川の考えからだが、あとの500円とはセットの“水槽”代。つまりは演技はお金をもらうにふさわしくないから、その分の500円を返すということ。果たして、本番はどうなるか。

いいものを作るには 勇気を持って捨てることも大切

7月27日 本番前日。稽古前に、蜷川から団員に話があった。

「明日、みなさんの演技を観て、いろいろ周囲から言われるだろうけど、気にしないこと。それに左右されると演技が変わっちゃうから。プロはそういうことに揺るがない。我々ではできるところまでやってきた。すごくいい瞬間もある。あとは僕らを信じて」

演出の井上尊晶さんが続けた。「ある程度のライフラインはできていると思っている。方向性は間違っていない」

この日、蜷川は決断したことがある。2部でやろうと思っていた、『三人姉妹』的一幕をすべてカットしたのだ。今日まで稽古を重ねてきたが、「まだ客に見せる段階ではない」と上演をやめた。

「いいものを作るために、捨てることは大切だ」

自身の苦い過去の経験を語りながら、団員に説明する蜷川。プロとして幾度も修羅場をくぐってきた人間ならではの決断だった。

7月28日 初日。「稽古の時のように檄は飛ばせないから、(演出家は)お嫁にやった娘をハラハラ見守っている父親のようなもの。まあ、頼みますよ」と、蜷川に送り出された団員たち。楽屋では、仲間と大声で歌を歌ってリラックスするもの、一人の世界に入り、ぶつぶつとセリフを繰り返すものと様々。……そして本番を迎えた。

俳優は観客の眼差しの中でしか成長しない

この日以降、千秋楽まで連日、満席だった観客は、テレビや雑誌などの報道を通し、さいたまゴールド・シアターの活動を以前から知っていた人や、演劇関係者も多く、各方面から

の関心が高いことがわかる。

「感動しました。体が震えて涙が出そうだった。すごいですね。こんなふうになれるのかと思いました」(63歳・女性)

「二十数組ものチー子と灸の同じやりとり、それぞれの組に味わいがあって、全くゆるみなく見通しました。あれが若い役者たちだったら途中で飽きたと思う。俳優の上手い下手とは何か、惹きつける力とは何か、など考えさせられました」(翻訳家・松岡和子氏)

「彼らが俳優としてどうかということよりも、自分の足でしっかり立っている人が精一杯やっていることに感銘を受けました。そういう意味で得るものはありましたね。馴れ合ってしまうということから引き戻してくれますから」(俳優・唐沢寿明氏)

一方では、観客の前で演じることが生まれて初めてだった人も少なくない団員たちは、その洗礼を受け、公演の間でさらに成長したようだ。この点でも「俳優は観客の眼差しの中でしか成長しない」という蜷川の狙いは見事に果たせられたようだ。

「楽しかった。けれど、あれだけ練習したのに、タイミングがずれてうまくセリフが言えなかった。(演劇は)もっともっと奥が深いんだということがわかっただけでもよかった」(団員の葛西弘さん)

「初日が開けるまで、(上手く出来る時とそうでない時の)浮き沈みが激しかったけど、お客さんを前にすると、伝えようという気持ちが自然に出てきました。やってよかった」(団員の小渕光世さん)

ここに至るまで、団員たちの記憶力や体力などを確かめながら手探りで稽古をし、「毎日が試運転。時々どこかにぶつかる」思いをしてきた蜷川も、「初日の出来は55点だな」と厳しい点をつけながらも、一方では手応えを感じているようだ。

「劇の概念をはずれて、戯曲を離れて成立することがある。その人の生きてきた文脈でみるとそうなるのか。だから、紛れもなく見たことがないような、驚く瞬間がある。それは職業的な俳優には出来ないことだ」(蜷川)

さいたまゴールド・シアターが既存の職業的な俳優に対して、なんらかの問いを投げ掛ける存在になれば、というのは、蜷川がこの劇団を始めた大きな理由のひとつだろう。その思いがあるから、「毎日、俺が団員たちから試験を受けているみたい」でも、蜷川は走り続ける。

千秋楽、「今日はうまくなっている。5日間の間でも変わるもんだね。今日は80点」と言い残した蜷川。夏休み明け、9月から再び始まるレッスンで、団員たちはどんな成長を見せてくれるのだろうか。

「さいたまゴールド・シアター」

団員紹介

『埼玉アーツシアター通信』では、

47名の団員すべてをご紹介しています。

役者を目指し、毎日、頑張っている団員にご注目。

団員のみなさんへの質問

1. 入団の動機 2. 入団後、一番嬉しかったこと
3. 一番大変だったこと 4. 中間発表会への意気込みは？

倉澤誠一(くらさわせいいち)さん 61歳

20年近くある演劇活動の経験を生かし、独特な存在感で団員のみなさんを刺激する存在の倉澤さん。昔に比べると「セリフ覚えや動きが悪くなった」と嘆きつつ、「その分、人生経験で補いたい」と日々意欲的に取り組んでいる。目標はもちろん、「いつかは大ホールで、蜷川さんで……」。

- 20代の頃、いい加減な演劇青年だった。それが元で定職にもつせず、61歳になった。さすらい続けた人生の終着駅にしようと思募した。
- 蜷川さんに出会えたこと。
- 股関節症のため普通に歩けません。ごまかしながら稽古しています。誰か手術しないで治す方法を知りませんか？
- 若い頃に比べ、体力と度胸がなくなった。昔とった柄でやるしかないか……。

上村正子(かみむらさこ)さん 58歳

以前に比べ、やせて「引き締まった」と周囲から言われるという上村さん。「好きなことのある幸せを感じています」

- 小学生の頃、教科書の音読が好きで、演じることに興味を持っていました。司会や朗読を学んでいた時期もありますが、50代になって、やっぱり芝居がしたい、自分を表現したいと思い始めていた時に募集を知りました。
- 台本を手にした時。「声に出して言いたいこと」が、「言いたい言葉」が、そこにはたくさん書かれていました。
- 宵っ張りの朝寝坊が、毎朝5時半に起きることが何より大変でした。睡眠不足と闘いながらも、好きなことをやるのなら起きられるのだと知りました。
- 創られていく過程が好きです。「セリフを覚えること」「五感を鋭く、アンテナをいっぱい立てておくこと」うーん、あとは？ 私にとっては未知の世界。役者として発展していく自分であることを実感したいです。

北澤正昭(きたざわまさあき)さん 64歳

中間発表会で、冒頭のセリフを言うことになった北澤さんは、ヴォイスのやまとのりご先生や、共演の若い俳優、前川選手さんにも指導を仰ぎ、自主的な稽古にも熱心。

- 潜在的に変身願望があったか。蜷川さんの「身体表現者、その可能性に賭けてみようと思う人」という言葉に触発されたのが決め手。この小脳体全身を使って何かを表現してみたい、という気持ちになった。
- 蜷川さんに、(芝居の最初のセリフを言う役として)イの一番に名前を呼ばれたこと。ヤツタという気持ちとオレでいいのかという気持ちが一瞬錯綜、返事が遅れた。トップバッターの重責を果たせたのかどうか……。
- ダンスも日舞も、踊ることは楽しいが、ステップや振りを覚えるのは大変で、結構キツイ。
- 道具や照明、音響、衣裳など、プロのスタッフに囲まれて本番準備が進んでくると、いよいよヤラざるを得ないという気持ち。

小林 博

(こばやしひろし)さん 80歳

男性団員の中で最高齢の小林さんは、若かりし頃、フレッド・アステアに憧れていたものの、演劇活動などはしたことがなかったという。さいたまゴールド・シアターのオーディションに合格して、いよいよこれからとなつてすぐ、突然メニエール病に見舞われ、立ち上がるも目眩が襲うなか、練習をこなして来た。中間発表会には、息子さん夫婦も親に訪れた。「自分のセリフを言う前は、いつもドキドキしています」。

- 身体の実現力に自分の活力を見出したい。元気なうちに習いたいと思った。
- セリフを覚えるのに女性グループが協力してくれて、励まされる。頭の活性化につながりそう。
- 日舞、ダンス等体力的にコントロールしていくのが大変だった。セリフの暗記も同様。
- 頑張っていくっきゃない。楽しいから。

重本恵津子(しげもとえつこ)さん 80歳

中間発表会本番を迎え、より緊張感が高まる中で団員全員が成長していることを実感しているという重本さん。「蜷川さんの一言一言が血の中に流れている感じがします」

- 終戦直後、北九州の詩人グループで、新しい文化を目指して自立劇団を創立しました。7、8年活動を続けたのですが、その後、別のことに従事し、80歳の誕生日を迎えて学習塾を閉じた時、偶然に蜷川先生の呼びかけを新聞で知ったので、演劇で最後を締めくくりたいと思いました。
- 蜷川先生の言葉に接すること。良き師との出会いは、人生最高のものです。80歳になって、それが果たせるとは奇跡です。
- セリフを覚えること。若い時は記憶力抜群だったので悲しくなります。でもめげずに努力する以外にはなさそうです。
- 日舞が苦手なので、練習にもっと励みます。長男(43歳)次男(39歳)が物心ともに援助してくれていて、発表会を楽しみにしているので、しっかりやろうと思います。

神尾富美子(かみおふみこ)さん 70歳

動機をやめてから、様々な習い事をして何もしない空しさを埋めようとしたが飽き足らなかった神尾さん。今は「こんなに楽しいことってあったかしら」と思うほど夢中。

- 70歳の誕生日に高齢者劇団募集を知り、運命的なものを感じた。演劇は無縁な人生を歩いて来たはずなのに、「経験不問」という字が勇気づけてくれた。何かにチャレンジするのは今しかない。応募書類を出した時の自分の手の震えが今でも忘れることが出来ない。
- 新しい世界に迷い込み夢中で過ごした二ヶ月余。その中でもやはり一番は、蜷川先生の前で手探りで演じたチー子(戯曲『明日そこに花を挿そうよ』の役)であつたらう。
- セリフを暗記すること。新しいことを覚えること。
- 団員の1人として恥ずかしな姿勢を勇気をもって外部の方々にも見えていただきます。心の中で1年後には絶対変わってみせます……と叫びながら。

佐藤禮子(さとうれいこ)さん 73歳

山形県に疎開していた時に、演劇部に所属していた佐藤さん。さいたまゴールド・シアターの活動を通し、「その苦勞と努力があるからこそ、ものをつくることの大変さもわかるようになったし、芝居でも映画でもより深く面白く見られるようになった」という。

- 年齢的に上限がなかったこと。学生時代、演劇部にいて、夢を実現したかったこと。日舞、三味線、民謡、フラダンス、端唄、詩吟等を稽古したので、何かに役立つかと思ひ、応募しました。
- テレビ、映画の見方が変わったこと。役者の苦勞、ものづくりの大変さを知ったこと。また、蜷川先生の指導を受けられたことです。
- 短期間でセリフを暗記すること。
- 全国の元気がない老人たちに、私たちのパワーを見せてあげて、元気になってもらいたいと思います。

©山下恒徳



© Lois Greenfield

Lois Greenfield Exhibition

ロイス・グリーンフィールド ダンス写真展

『AIRBORNE エアボーン ~中空のポーズ~』

開催中 ~ 12月3日(日)

9:00 ~ 22:00 ※劇場休館日を除く

彩の国さいたま芸術劇場 ガレリア

展示点数:50点 入場無料

9月30日、10月1日に彩の国さいたま芸術劇場 大ホールで公演予定のオーストラリアン・ダンス・シアター『HELD』では、写真家ロイス・グリーンフィールドが舞台に登場する。80年代、デビッド・パーソンズ、ダニエル・エズラロウ等とともに実験的撮影に着手、舞踊写真の在り方を一変したグリーンフィールド。その代名詞でもある四角いハッセルブラッド・カメラの枠の中空に、踊る身体のでやかな美しさを閉じ込めた。中空に止まった身体のポーズ。